



9
3.654
保



門 保 8
番 9.654
卷

目錄

- 一 服職次第抄
- 一 武家裝束著用圖
- 一 武家宣位畧記御昇進之次第
- 一 裝束繪樣文 群書類從抄
- 一 女房裝束抄
- 一 吉見季和先生有識之記

皇
室
文
庫



方丈之外系院社人山伏まゝに後為し喜本
去更山事を文と成りて心よりまじりておのれを
曆身自長修。尚ほあまの身自中修世三月初六日開
二月三日曆身自長修。○柳永式部卿喜字大徳受
丹伊右衛門家元中修。○山形松海公中長修。同
夜心弱物と云ふ。長修組毎歳於て外橋東
まゝ抱ての如く河平喜と曆身自中修

一四日五日曆身自中修

一七日山之家方松年如くも松年我前も松年之何年
松年上縁松年因信守のしと長修の御之石
消法を介す修細りて今もこの如く後を年
退書後を年自中修

一八日己年取

一十日曆身自中修。○百人は後山と略し後達を修

二十日女中元まゝに後為し

一十四日十五日廿八日四月初五日三月廿八日の如く修四月初六日

一毎月朔を女中後山と油澤惟子一麻上下同月日と
同り三月廿八日同月

一三月三日曆身自長修

一廿月廿日深惟子長修

一七月七日八月初日自惟子長修以月相四方を以て
後山自惟子長修

○成瀬舟人山竹腰山城の水也對馬守中山坂前舟
家夜浴道帝階山竹腰山城候に於て後山



白石山にて建部守相自さる威尊佳節とて於
 大層下末拜湯世名本に傳る

九月九日花文控湯小袖長袴 世に傳る

昔昔八節元花後退 湯衣後 湯衣後

七月廿五日 湯衣白襦子

正月四月九月紅葉山 湯衣白襦子

湯衣白襦子 湯衣白襦子

正月廿五日 湯衣白襦子

同日世に傳る 湯衣白襦子

七月廿五日 紅葉山湯衣 白襦子

紅葉山湯衣 白襦子

紅葉山湯衣 白襦子

還川後



朔望廿八日過親武 卯辰日有將以礼之日也出仕之日
布衣以之出仕日還所後以礼後到申退書後午後

有月廿五日午也 卯辰生日辰身月漢體之半將
以禮後到申退書後午後

紅葉山所定武 卯辰之日也 城別取之半
將二寸赤又二寸赤山所人之日用也若等也

城門後到申退書後午後
或申也 城別取之半將七日書將之介

卯辰之日也 卯辰之日也 卯辰之日也
卯辰之日也 卯辰之日也 卯辰之日也

卯辰之日也 卯辰之日也 卯辰之日也
卯辰之日也 卯辰之日也 卯辰之日也

卯辰之日也 卯辰之日也 卯辰之日也
卯辰之日也 卯辰之日也 卯辰之日也

卯辰之日也 卯辰之日也 卯辰之日也
卯辰之日也 卯辰之日也 卯辰之日也

卯辰之日也 卯辰之日也 卯辰之日也
卯辰之日也 卯辰之日也 卯辰之日也

卯辰之日也 卯辰之日也 卯辰之日也
卯辰之日也 卯辰之日也 卯辰之日也

卯辰之日也 卯辰之日也 卯辰之日也
卯辰之日也 卯辰之日也 卯辰之日也

卯辰之日也 卯辰之日也 卯辰之日也
卯辰之日也 卯辰之日也 卯辰之日也

一 足反一曰被紗麻

一 河機屬何裏向伸之方内ハ被紗麻

一 歲考且初廿日廿八日之被紗麻廿九日之被紗麻

一 節外白芝 味之七守將度年自半終以被紗

一 前後半股世出攝進日

一 拜之極果為中主素袍長袴長袴長袴

一 後道四部之席 本河野之室置席拜禮中將也

一 任吉後道終極命書公四部以中主介是後席之内

一 幸阿洋流其之系以被紗人藏人之内年自

一 若用之者為中之内之節以同之也湯之内

一 若藏人之内人於人高而強者之先於其長

八年 河野月系山收之時被紗其後也

拜禮一末書其也山原良岡之懷中之内也

一 權之極一昇殿一長袴有白尚月持之内也

一 列之内也之内也之内也

一 年既之山被紗 刺使院後即封叙之内也

一 河川外海方也公也河封叙之内也

一 大紋法平法眼布衣之被年主素袍山同被紗

一 白袴進物香衣被之持家方之進方長大長ハ

一 小中衣公也於上人取白袴衣也市也將也也若也

一 式大紋有也司官白被紗一系准后被紗也

一 束帶河野也也河礼法平法眼布衣被紗也

山嶽歸化以新

一 所忌行を仕る事後御毎

一 天政八年十一月十日宗徳院敷二百年忌事

増々... 宗徳院敷二百年忌事

一 年号改元出仕... 後御毎

一 替御哀... 宗徳院敷二百年忌事

後御毎

一 所忌行... 宗徳院敷二百年忌事

一 所忌行... 宗徳院敷二百年忌事

一 所忌行... 宗徳院敷二百年忌事

一 所忌行... 宗徳院敷二百年忌事

一 所忌行... 宗徳院敷二百年忌事

一 所忌行... 宗徳院敷二百年忌事

但中忌事... 宗徳院敷二百年忌事

一 二月六日... 宗徳院敷二百年忌事

一 羊袴... 宗徳院敷二百年忌事

一 神楽... 宗徳院敷二百年忌事

一 二月廿八日... 宗徳院敷二百年忌事

一 三月... 宗徳院敷二百年忌事

一 所忌行... 宗徳院敷二百年忌事

一 所忌行... 宗徳院敷二百年忌事

一 所忌行... 宗徳院敷二百年忌事

例 列三月十五日卯之祭方松平加賀守之祭
 四月十五日卯之祭三月廿八日卯之祭
 五月十五日卯之祭四月廿八日卯之祭
 六月十五日卯之祭五月廿八日卯之祭
 七月十五日卯之祭六月廿八日卯之祭
 八月十五日卯之祭七月廿八日卯之祭
 九月十五日卯之祭八月廿八日卯之祭
 十月十五日卯之祭九月廿八日卯之祭
 十一月十五日卯之祭十月廿八日卯之祭
 十二月十五日卯之祭十一月廿八日卯之祭

嘉祥寺

一 河大祀之祭其外格別即其年一付太刀
 自縁就之祭其外格別即其年一付太刀
 智恩院之祭見相九也 城之祭將衣
 鳥帽子
 一 河府孫河地祭 河世湯之祭
 一 文政十一年四月年改之祭後 勅使院後
 一 河對顔大御言符河之取河及佐河親武并
 一 河百孫河府孫大御言符 河中車馬將衣

将衣

夏衣を在座ありきと云ふは其の意あり將衣と云ふは
或大袖透天紗ぬいせぬ紋ふり同但位階よりして威文
は別々色目直垂と同し

指貫

侍従以上は赤緋白表目色平袴四座一筋を夏
は黄緋白表平袴同色赤は各座の別々
帯は將衣の別々を用ひ又は赤緋表目
紅の紗を用ひしるあり

末廣

同赤

小方

同赤

大紋

則布直垂の如く其の裾を又の振り
色目黄緋表目色赤緋表目色の別々を余は
好し但紅緋表目を余は又赤緋表目
其の別々も亦細かくは赤緋表目
けしは別々の別々を直垂の如く

烏帽子

同前掛紙は

小方

此の如くは侍従以上は赤緋表目の如く
赤緋表目の如く又赤緋表目の如く
同赤

赤廣

侍従以上は赤緋表目の如く
同赤

布衣

侍従以上は赤緋表目の如く
同赤

烏帽子

侍従以上は赤緋表目の如く
同赤

布衣

侍従以上は赤緋表目の如く
同赤

遠紅

侍従以上は赤緋表目の如く
同赤

白張

侍従以上は赤緋表目の如く
同赤

侍従退紅白張

侍従以上は赤緋表目の如く
同赤

石帯

地帯に石帯を文を車馬形用紙石水年の此
に付用也九龍遊方の二石を石帯を分るを
九龍の石帯を石帯と云ふ也世方石帯を
用也石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
長めは石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の

隨刀

隨刀は刀の石帯は石帯の石帯は石帯の
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
赤大石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯

鞞

其の石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
定は石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
及つて

緒

俗に石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯

波香

波香の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯

衣冠

衣冠の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯

冠

冠の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯

袍

袍の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯

指

指の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯
石帯の石帯は石帯の石帯は石帯の石帯

下袴
野古刀

槍扇

● 虫衣

冠

三鳥帽子

折鳥帽子

三鳥帽子

虫衣

古ハ後ヲ用道代年経進ハ格好又ハ多クシテ
布ハ強法ト可ハ大板ハ切リテ

或ハ筋先又ハ板形カ刀年筋カ刀草筋カ刀カ
三層ハ上全布カ四層ハ上全布カ以テ四層ハ上全布カ
筋先又ハ板形カ筋先又ハ板形カ筋先又ハ板形カ
六層ハ上全布カ七層ハ上全布カ八層ハ上全布カ
九層ハ上全布カ十層ハ上全布カ
十一層ハ上全布カ十二層ハ上全布カ
十三層ハ上全布カ十四層ハ上全布カ
十五層ハ上全布カ十六層ハ上全布カ
十七層ハ上全布カ十八層ハ上全布カ
十九層ハ上全布カ二十層ハ上全布カ

● 三鳥帽子
冠ハ上全布カ
三鳥帽子ハ上全布カ
折鳥帽子ハ上全布カ
三鳥帽子ハ上全布カ

冠ハ上全布カ

三鳥帽子ハ上全布カ

折鳥帽子ハ上全布カ

虫衣ハ上全布カ
三鳥帽子ハ上全布カ
折鳥帽子ハ上全布カ
三鳥帽子ハ上全布カ

● 小直衣

三鳥帽子

● 素袍

侍鳥帽子

素袍

小サ刀

● 小直衣
大直衣ハ上全布カ
小直衣ハ上全布カ
大直衣ハ上全布カ
小直衣ハ上全布カ

● 素袍
素袍ハ上全布カ
素袍ハ上全布カ
素袍ハ上全布カ
素袍ハ上全布カ

● 侍鳥帽子
侍鳥帽子ハ上全布カ
侍鳥帽子ハ上全布カ
侍鳥帽子ハ上全布カ
侍鳥帽子ハ上全布カ

● 素袍
素袍ハ上全布カ
素袍ハ上全布カ
素袍ハ上全布カ
素袍ハ上全布カ

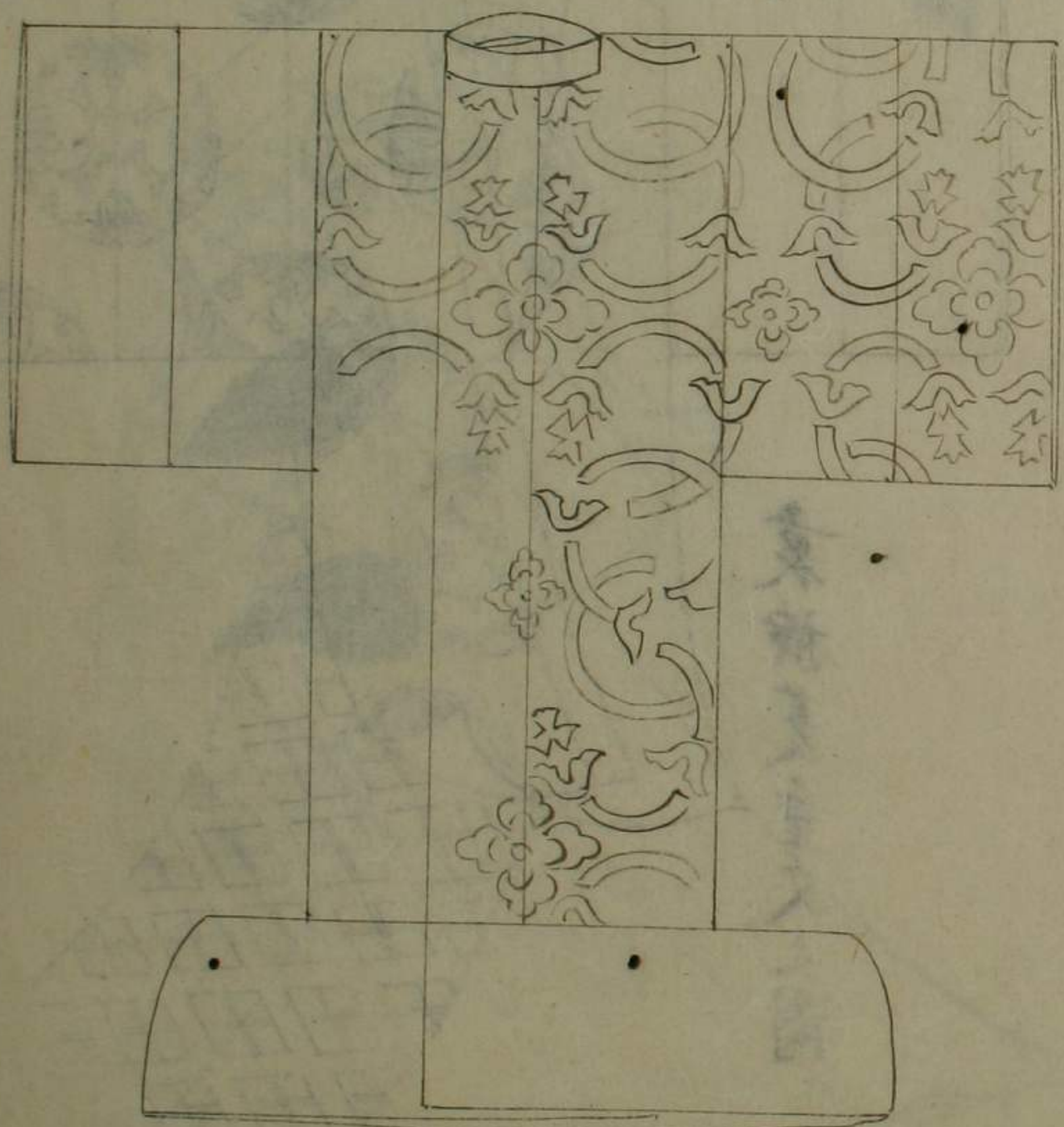
● 小サ刀
小サ刀ハ上全布カ
小サ刀ハ上全布カ
小サ刀ハ上全布カ
小サ刀ハ上全布カ

侍従及四位以上儀ノ一ハ五位ハ上下カ白中袖カ
山若御負カ表カ身カ若カ方カ白中袖カ
○他ハ三カ方カ三カ方カ三カ方カ
裁カカ月ハ二月十五カ元カ儀カ
カカ用カカカカ

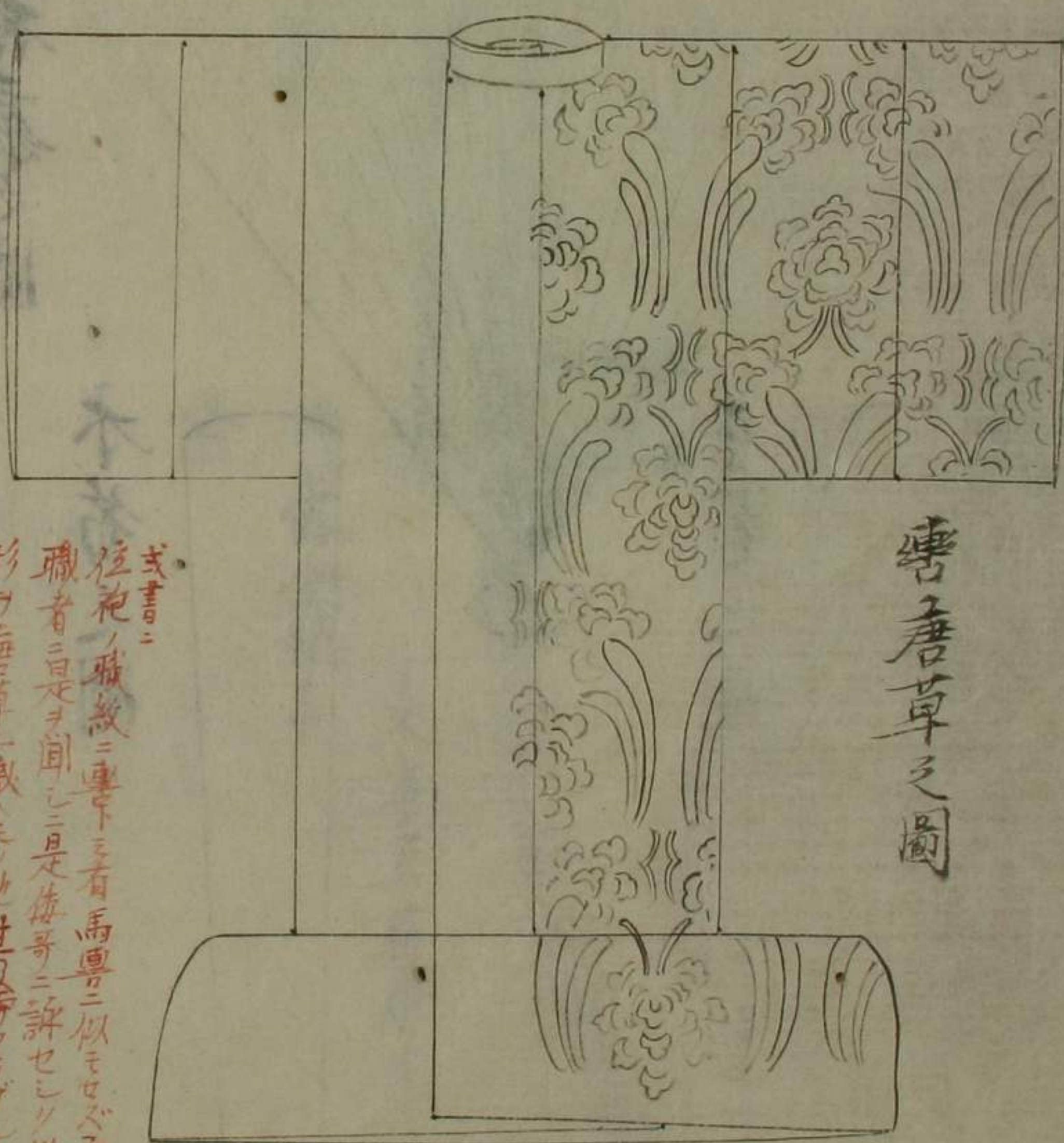
下裝上圖

同

輪魚
唐草



圖之袍



唐唐草之圖

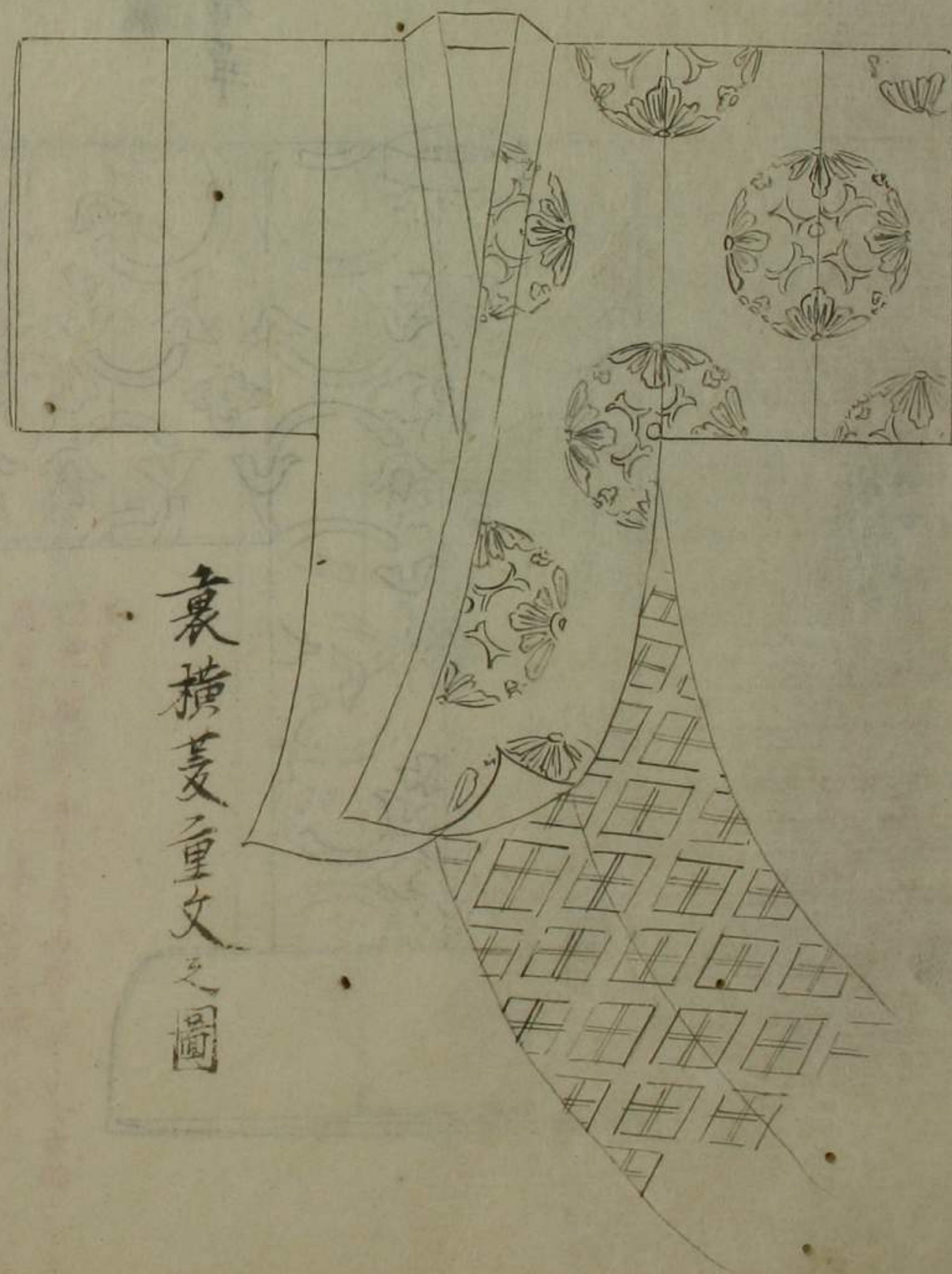
式書
位袍ノ職級ニ準テ三有馬車ニ似モロズ亦輪サレトモ紋有
職者自是ヲ聞クニ是は海哥ニ許セシツワトリ草ノ
形ヲ唐草ニ織ルモノ也其輪アラサレナト云ヘリ

春麻之圖



裙之圖

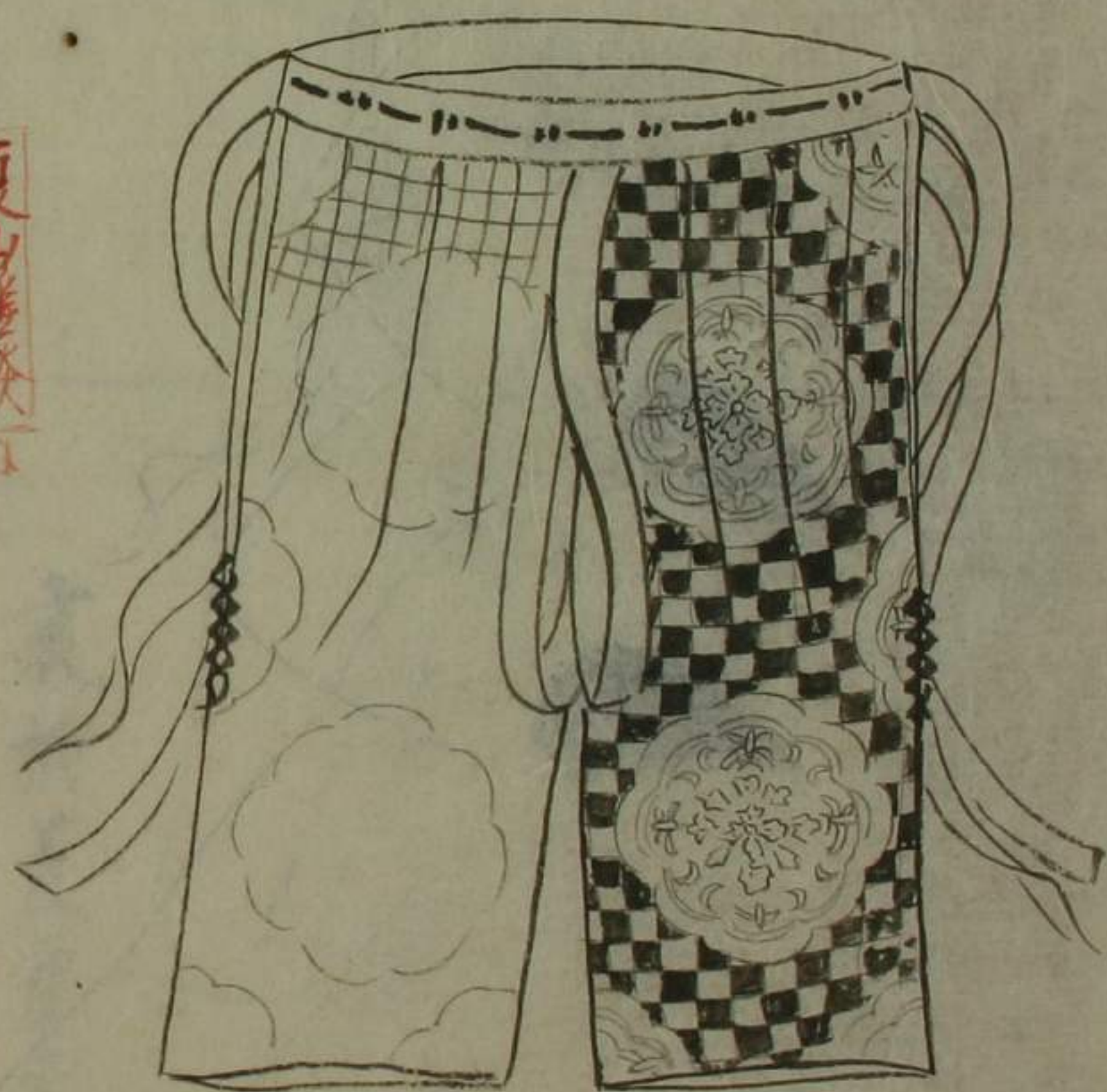
圖之綾線浮 圖之簾下



裏橫菱之圖

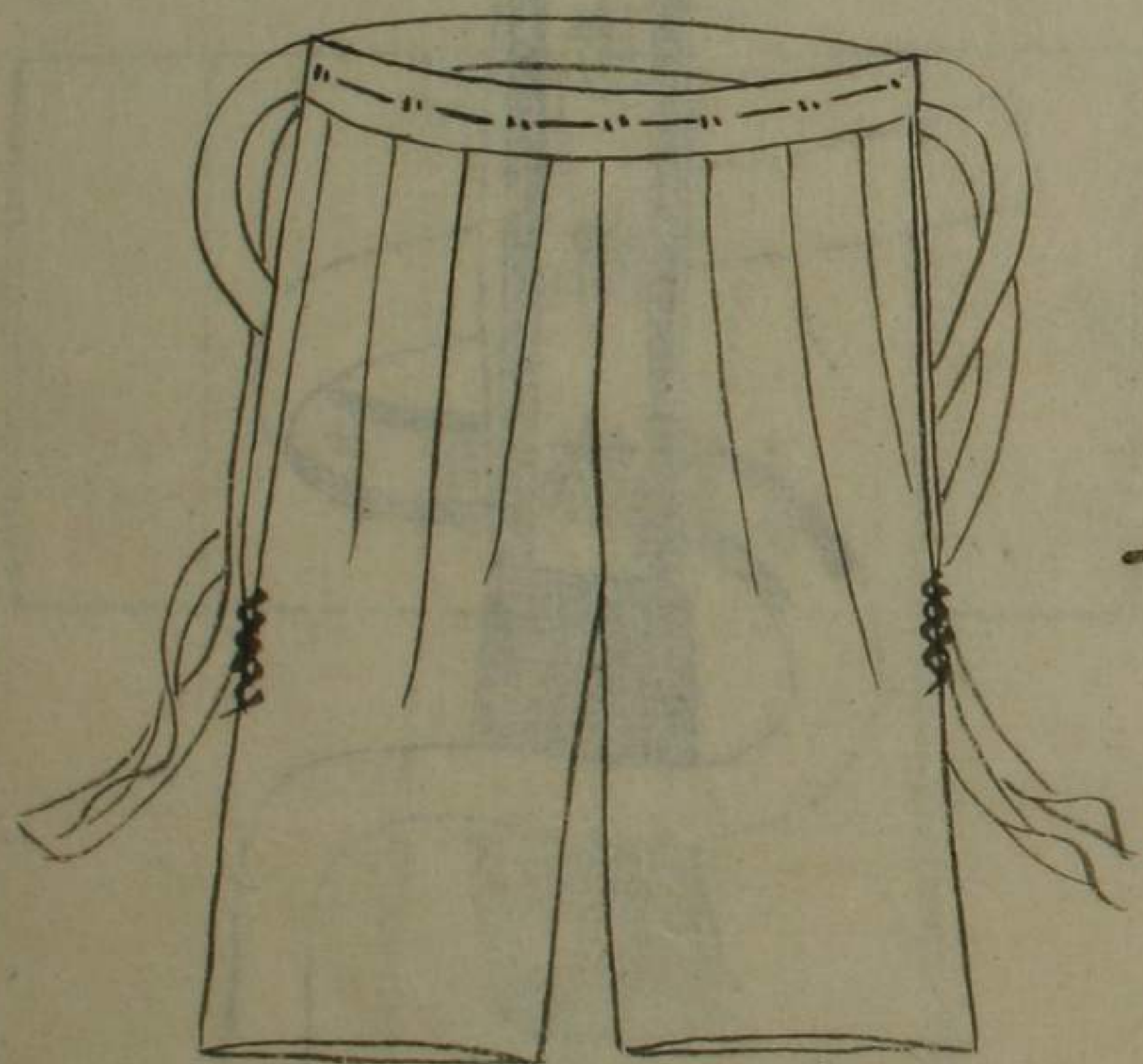
表袴之圖

致窠之圖

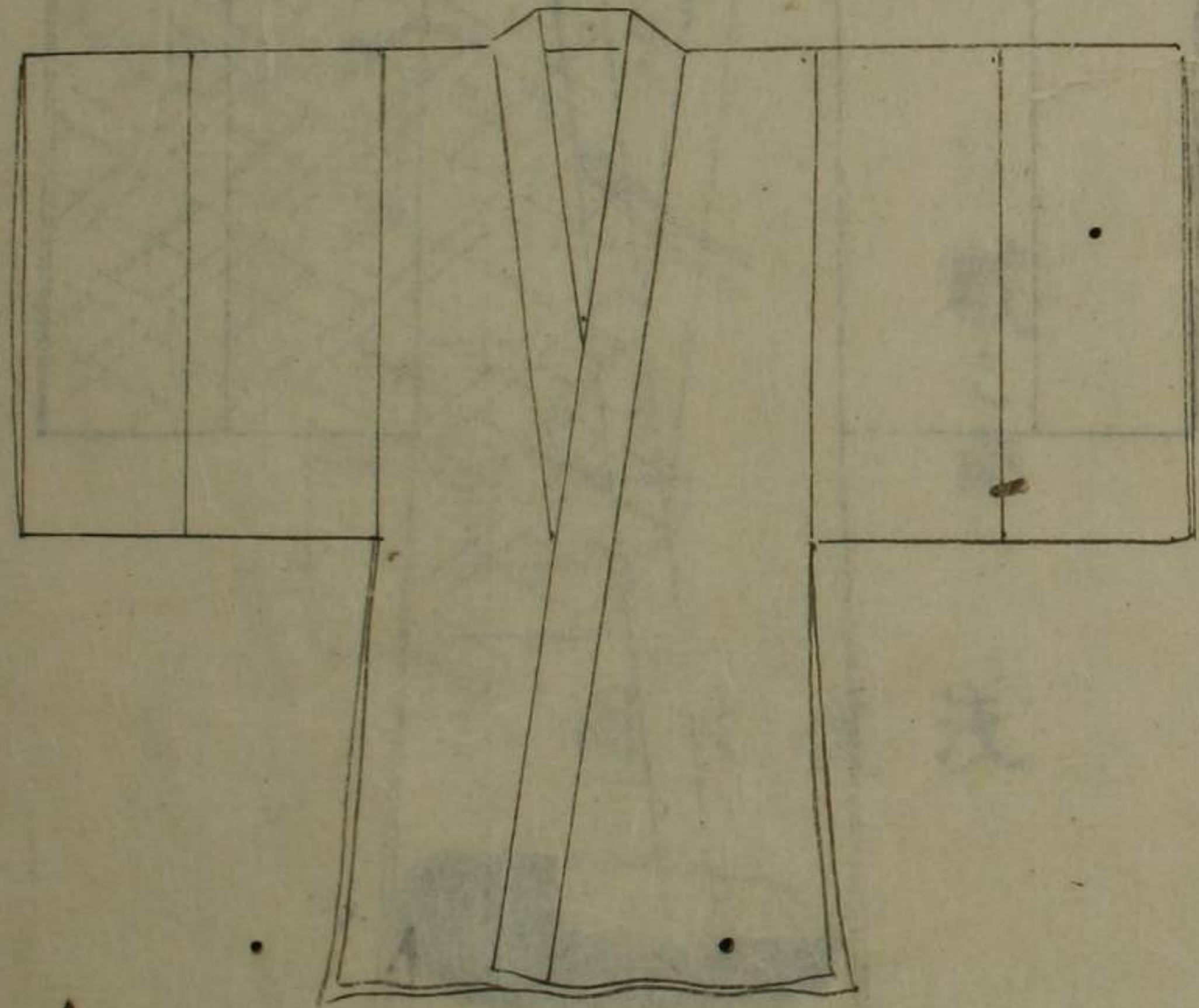


夏山雜談
 窠ハ音ツツ鳥ノスナリ天子ノ御服ノ御致ウル窠ハハ
 鳳凰ノ窠ナリ五ノ窠鳥ノ窠ナリ臣下ニ用ルナリ今俗ニ西ノ窠ハ
 木札ノ切口ニ木札トシテナリ餅事ナリ鳥ハ斬チニ窠カク
 モノナリハ憎瀬ノ致ニ窠ナカハナリ是致ニモツカウト云ナリヤ

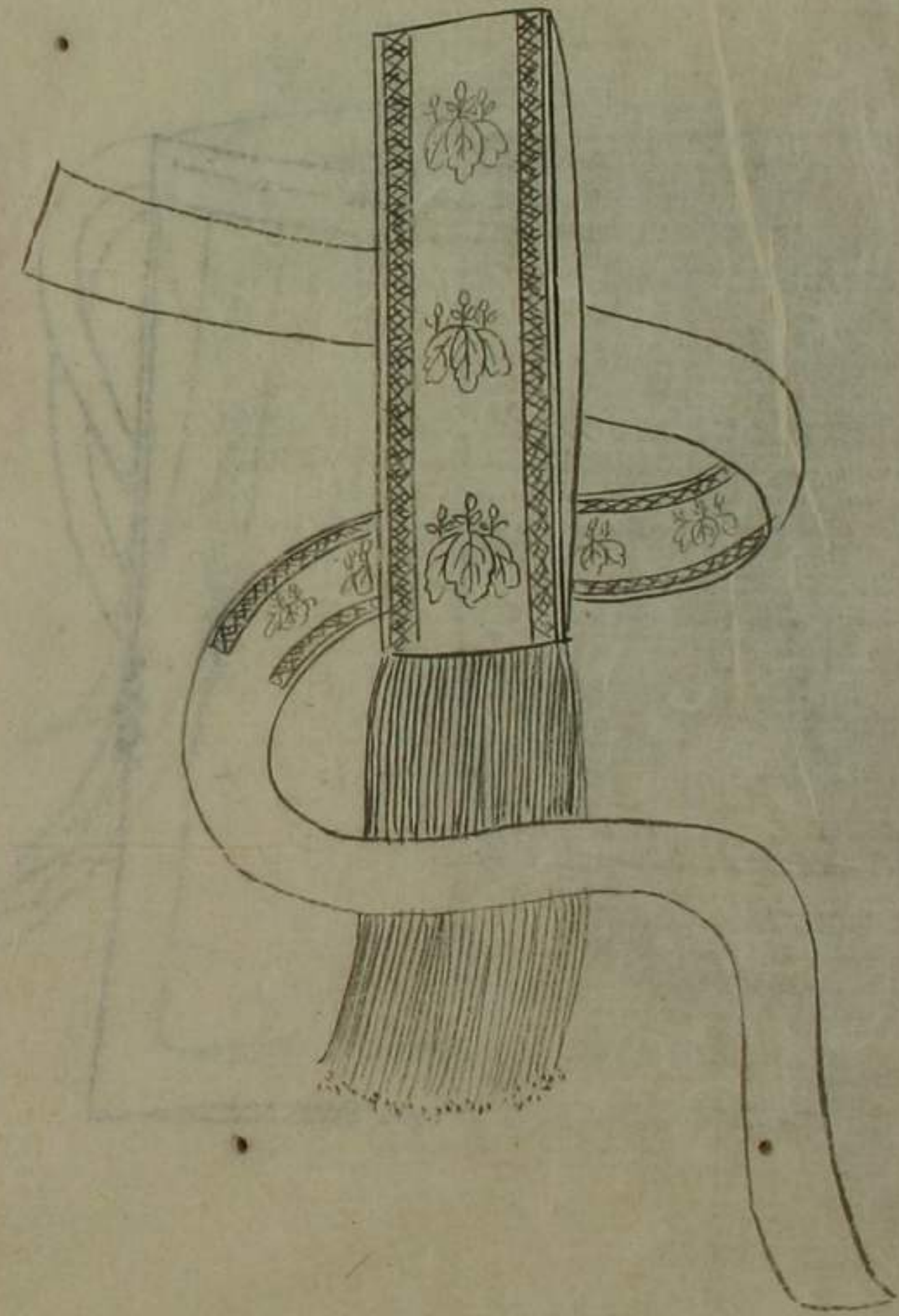
赤大口之圖

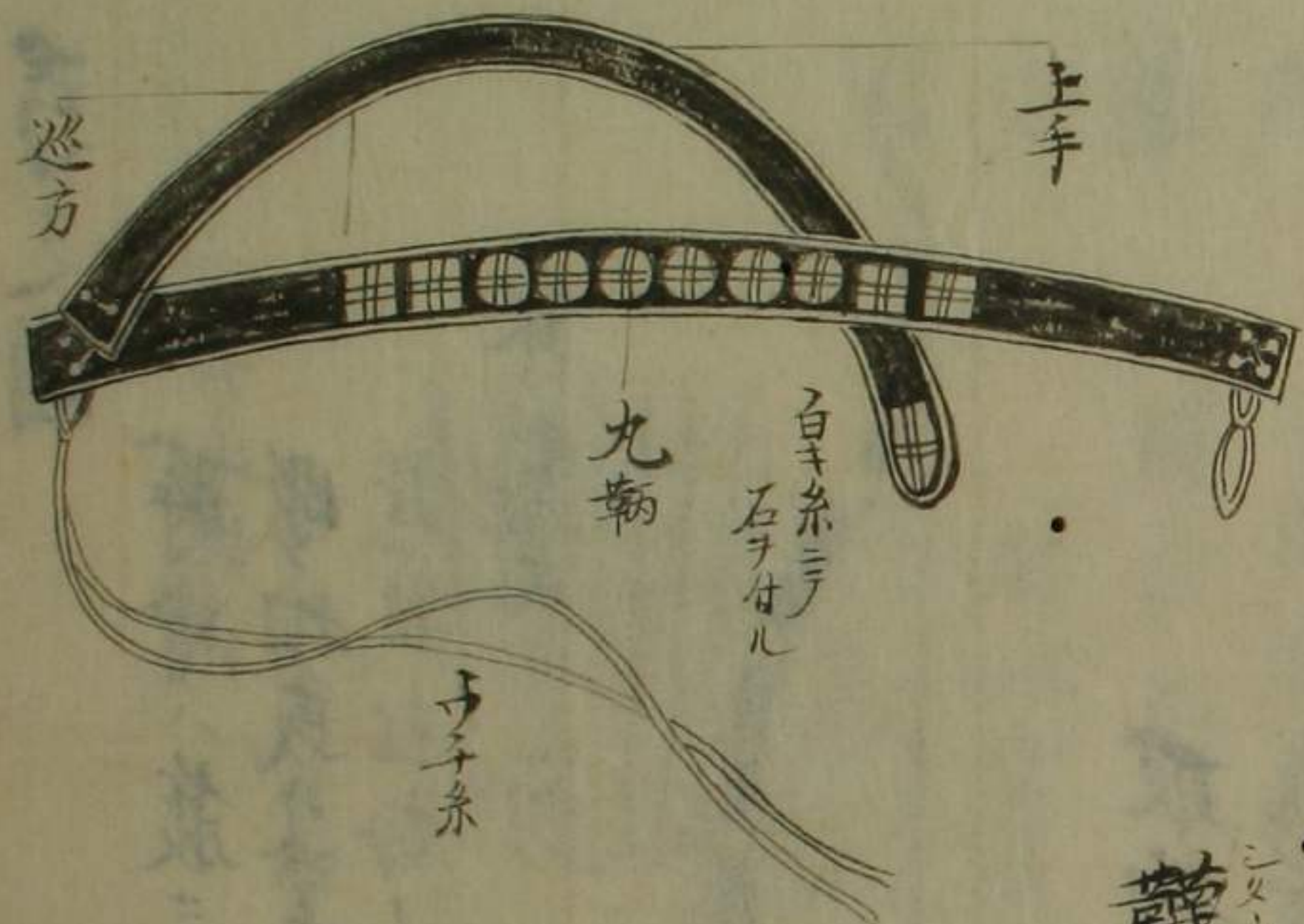


大帷子圖

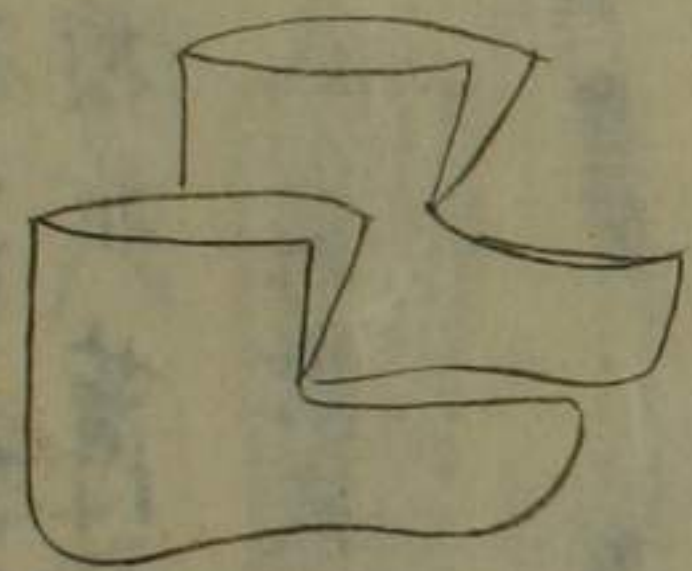


平緒之圖



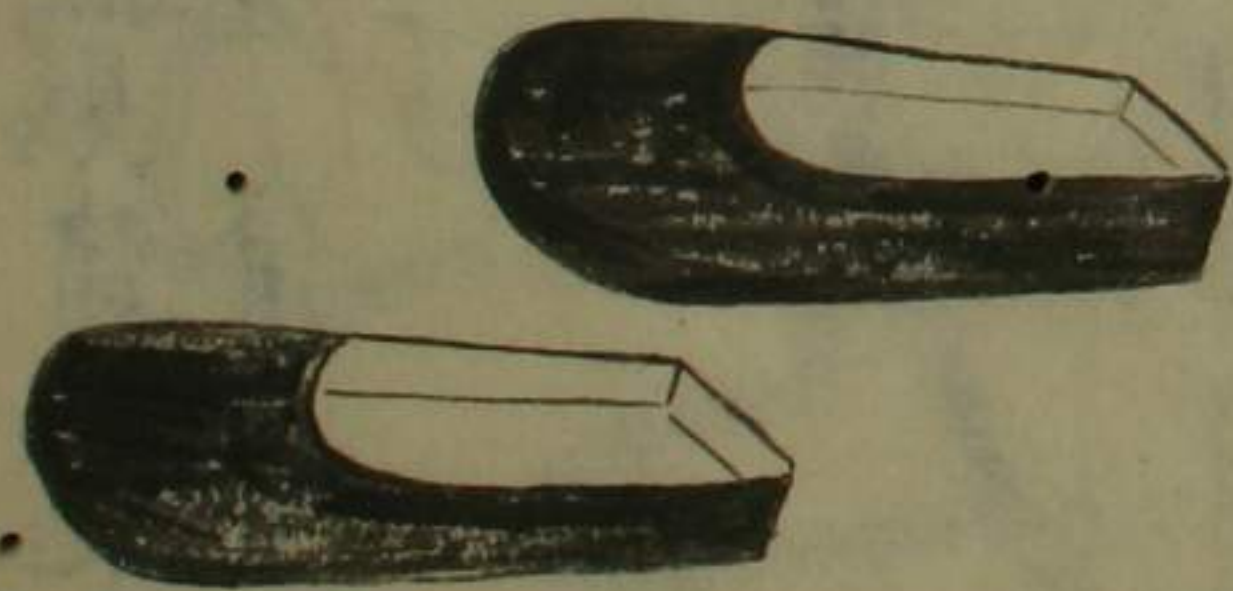


石帯之圖



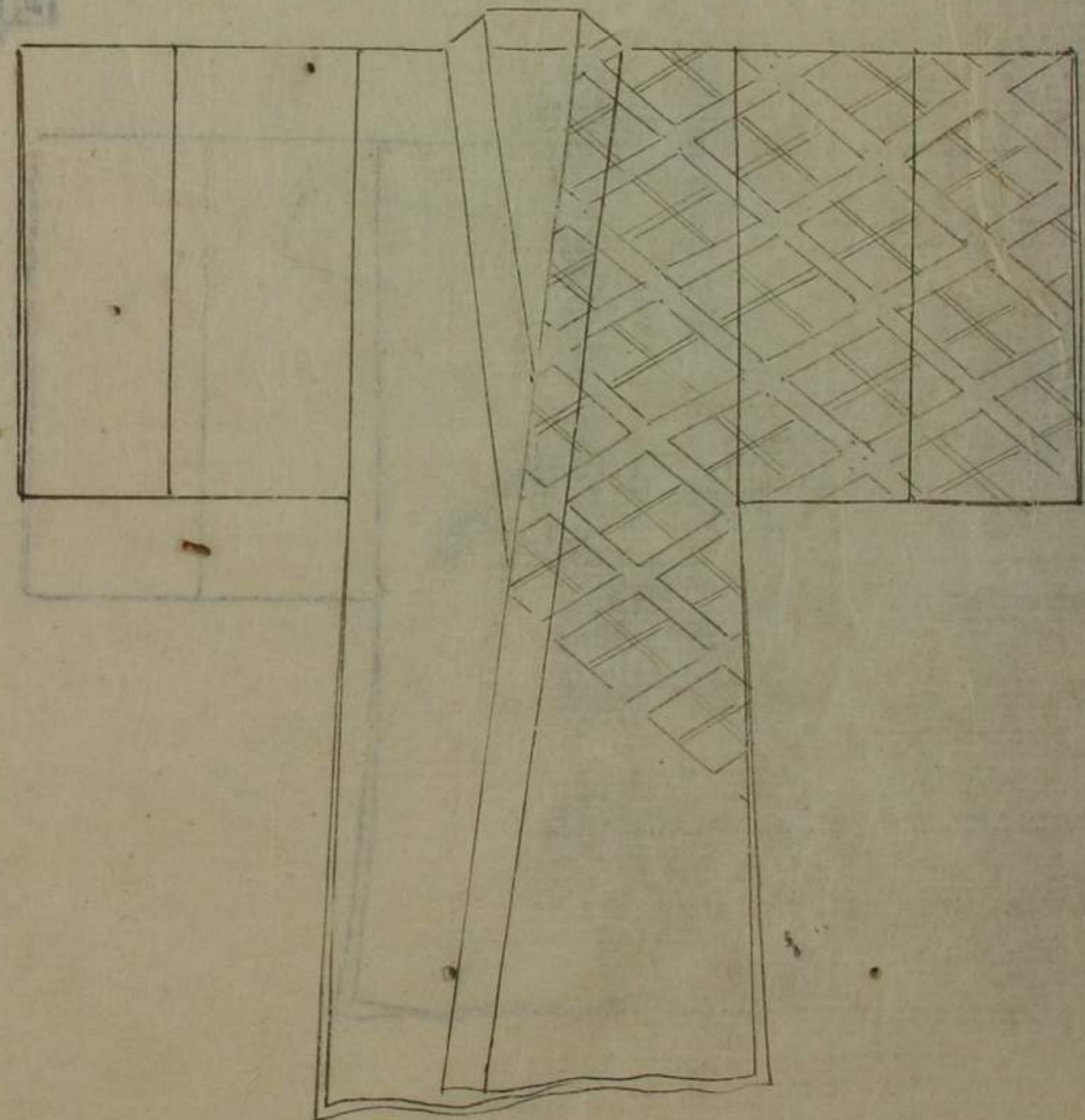
浅履之圖

淺履之圖



單之圖

大御衣圖



弓之圖

蔣繪ハ箠ニ隨ヘキナリ、或ハ摺具、猪ハ銀ノ彫物、或ハ塗、梓ハ白キ檀紙、宿左ノ人用之、仕年ハ色紙、紅梅ノ檀紙、薄棟等ナリ

銀ノ彫物、或塗上物

文ハ蔣繪、或ハ螺鈿



取柄

銀彫物、或塗上物

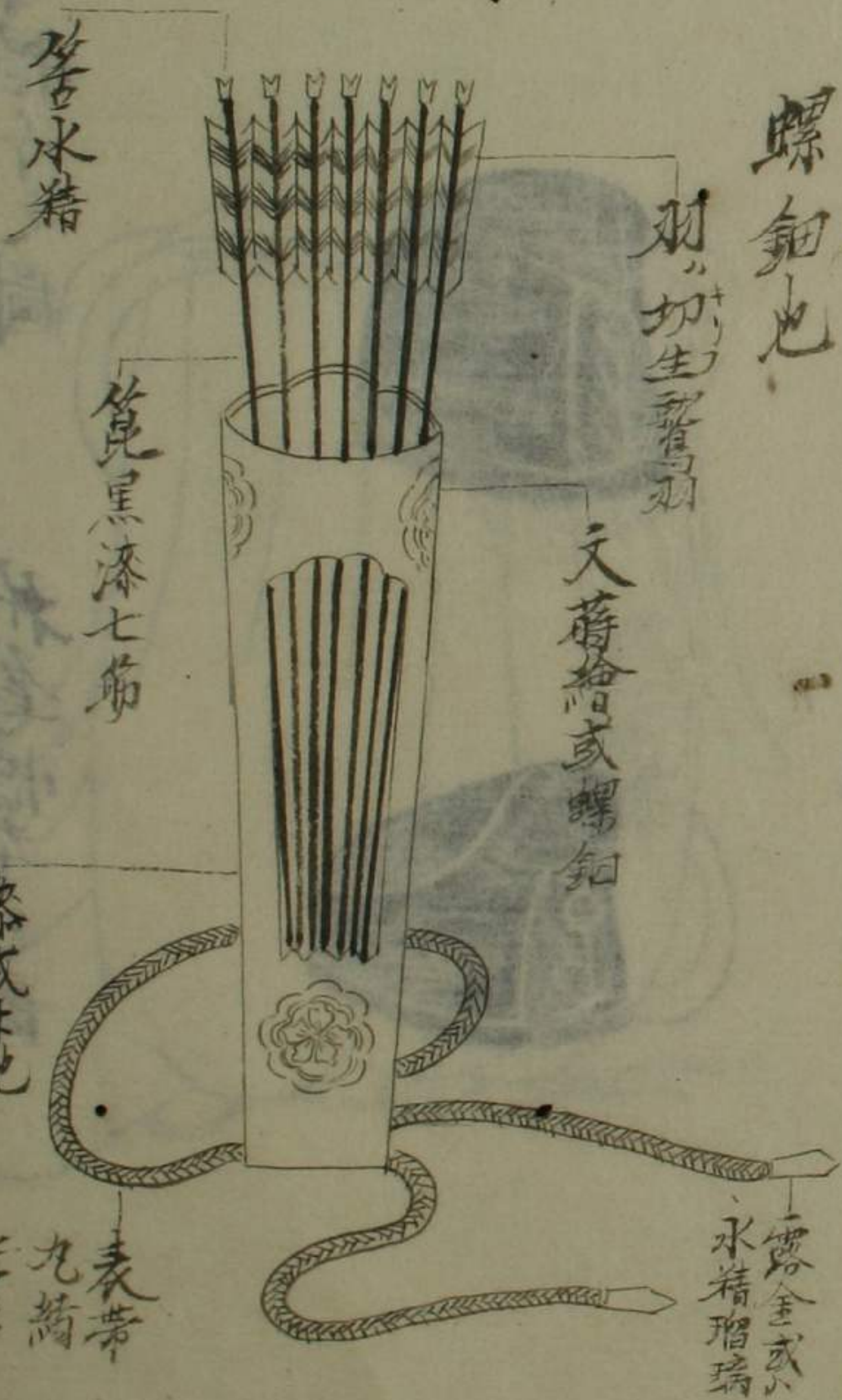
取柄上下ヲ卷組ハ赤シ、或紫紺糸等ナリ

臺胡蘇之圖

讓位、節會等、警固ノ時、公卿以下、負之、公卿蔣繪、或螺鈿、非赤、讓次將、木地、螺鈿也

羽切生、響羽

文蔣繪、或螺鈿



答水箆

篋、黒漆七筋

漆、或木地

表帯、丸筋、片云

露金、或水精、瑠璃

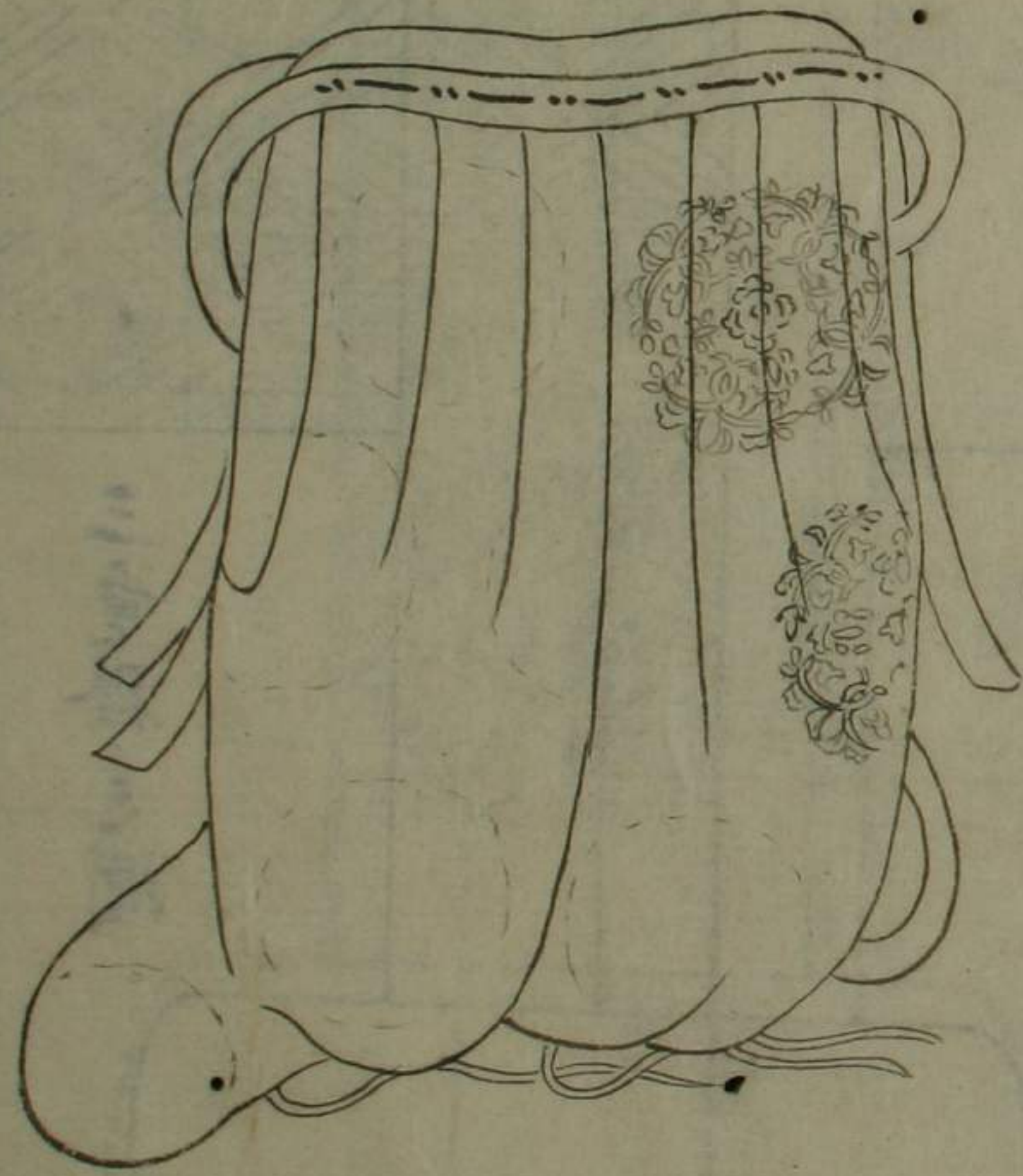
五為帽子之圖



折為帽子之圖



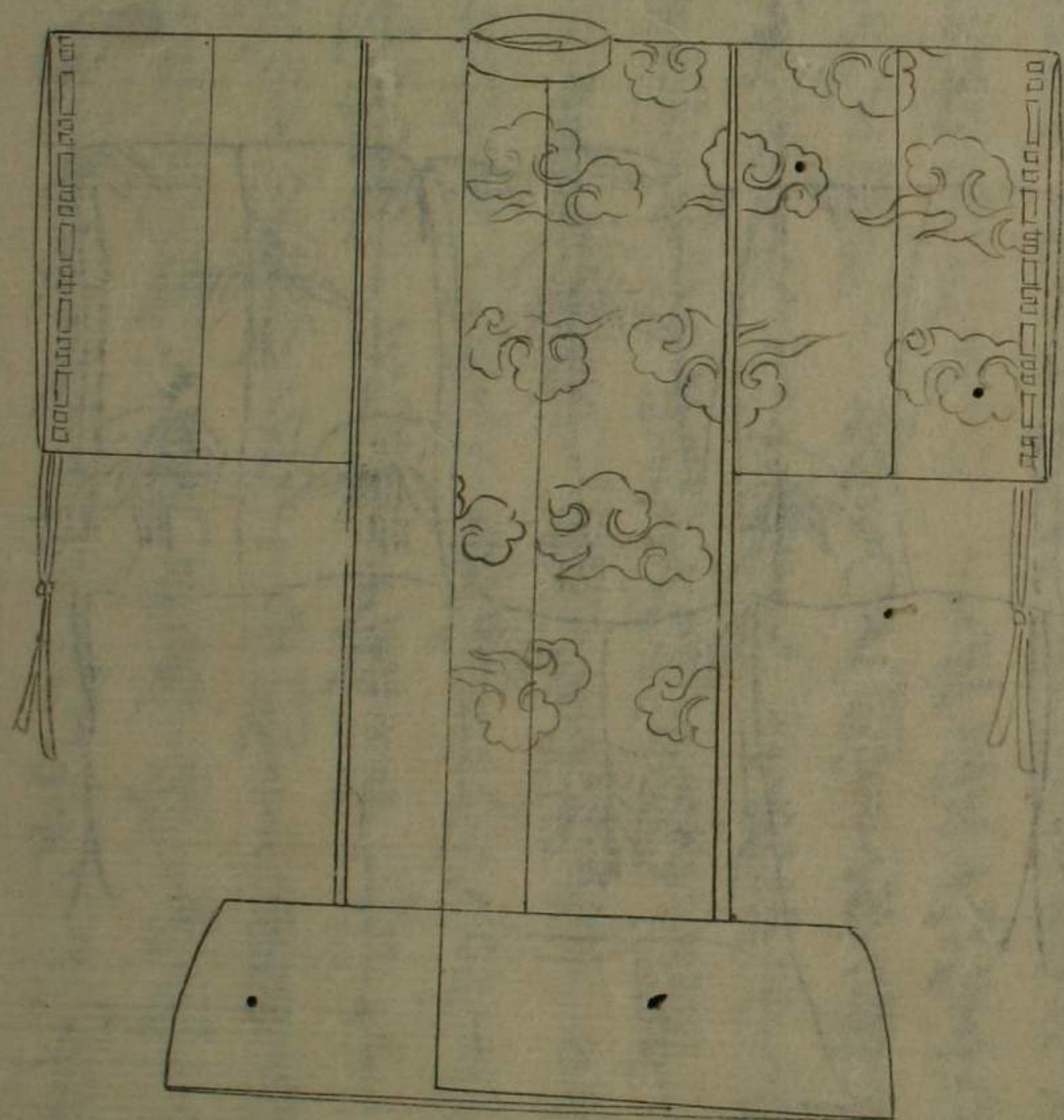
指貫之圖



故八藤又藤之丸

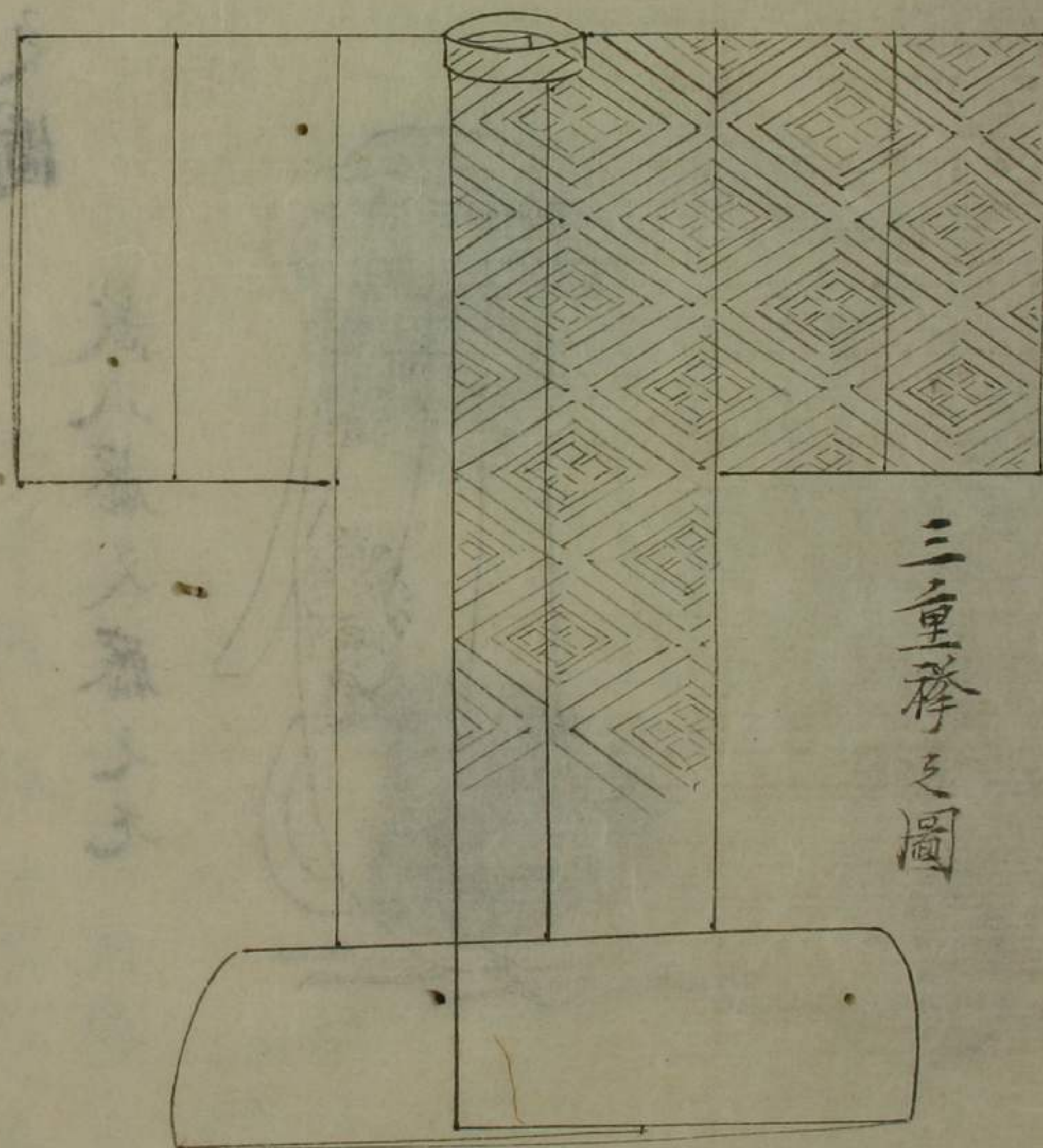
Faint vertical text bleed-through from the reverse side of the page, including characters like '藤' and '丸'.

小直衣之圖



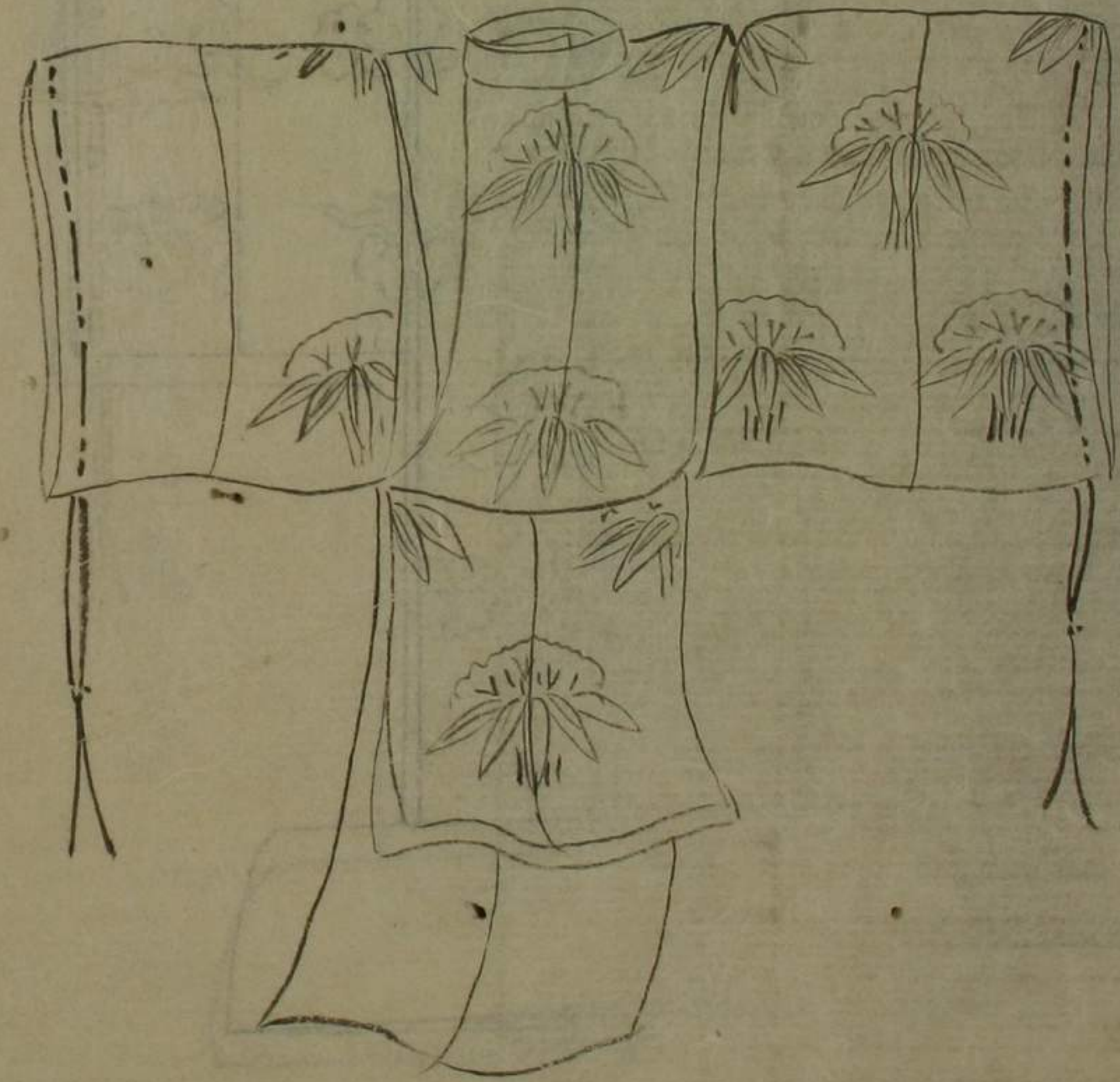
直衣之圖

許貴



三重襟之圖

將衣之圖



慶長十七年條曰武家
 仍多其教外教定
 王命仍其格別
 其餘武家
 且大伴綱言冬後
 友名を稱す
 所云家方
 出好虎
 冬後
 田安

より上とてし世の中は度大なる言ひ舟はたおよりハ
下あり冬後ハ四位より教位ハ三位及三位より四位
お南より及より上とてし中ねお南は從四位下あり
とてし西四位上あり上とてし中ねお南ハ五位也
とてし從四位上侍從より上とてし侍從ハお南は從四位
ありとてし從四位下侍從より上とてし侍從ハお南は從四位
とてし中ねお南ハ五位也
松平和泉守 為時加判し列す 壬午年
遠江守陽平上とてし其全幕世守柳屋景光
唐傳治世十石石以下下城守其城石石以下
是列し其序より列す也 日序同くありハ
家督あり

官位お南 ● 平公武官あり

西一位 神皇正統記 刻 ○ 播磨見道原押務河
永子等公叙し其後存生し例あり 從四位あり

○ 大政大臣 唐名お南 ○ 子任あり 正從三位 右大臣
右大臣ハ右府 ○ 門大臣ハお南 准大臣 依同く 右大臣ハ

西三位 ○ 大炊言 試ハ從三位

從三位 ○ 中納言 ○ 源西女 ○ 太宰帥 多し 右大臣
近衛 大將 右大臣 右大臣 ○ 夏夕張 宰相

西四位上 ○ 中務卿 中務卿の者ハ從四位 ○ 東三将 大臣兼任

○武官 ○中總 ○延口 ○陸員 ○裁示 ○攝石肥後
以上十ヶ處に上総及び陸上軍三ヶ處を 守 ○鎮守府 將軍
如十ヶ處に大國と
 ○左衛門 ○左衛門清以 四角の依
 從兵隊下 ○神祇大司祭事 ○女御言
等より身 ○侍從 ○大藍物 ○中宮之屯三ヶ處 ○陰陽以 ○大炊次
和氣丹波二家守等 ○掃部次
半井と稱し丹波に中食と稱す
 ○左衛門 ○典業次和氣丹波二家守等 ○左衛門
和氣丹波二家守等 ○式部次下右有ら 右補 ○文章博士
 心止察之小察之 ○大膳 ○左衛門 ○修理以 四藏之屯 ○東宮之守士
 ○春宮之屯 ○孫次郎 ○孫院長史 ○勘解由次史
 ○大月次元正上方 ○大外次元正上方
 ○右政官 侍 右有之右右右史右右史史史

子子局外記也 ○其代 右右史 兼右右史
 之云外次 上之云云 ○右右史
元正上方 ○上総常陸上軍 四ヶ處 ○山城攝津
右右史右右史 尾張三河 左衛門監 四軍 又右右史 右右史 信濃 右右史
 出羽 如賀 裁示 裁後丹波 但馬 周備 伯耆 出雲
 美作 備前 備中 備後 安藝 同防 紀伊 伊波 備後
 伊豫 備前 備後 豊前 豊後 肥前 肥後 上四ヶ處 守
 ○大宰司武 ○内令 人
 正六位上 ○神祇少司兼代 ○右右史 ○因幡
兼代 ○山親心 ○内膳心 ○遠内心 ○右右心
 ○西平心 ○内膳心 ○遠心 大右

○大膳左右系 ○修理少輔 少輔 ○大舍人少
高寮大寮 大高 ○善文坊 少高 ○大國子少
○左衛門 ○左衛門少輔 ○左衛門少輔
從八位下 ○大舍人少輔 少高 ○陰陽下
寮少寮 大高 ○丹波寮の大少高 ○丹波司
○大國子少輔 少高 ○上國子少輔 少高 ○下國
九ヶ國 少高 ○
大初位上 ○監物 少高 陰陽下 寮少寮 少高
○因獄 ○正親少輔 少高 ○大舍人少
○東西少輔 少高 ○全史
大初位下 ○年人 ○城郭 ○守女 少高 ○全史

○因獄 ○正親少輔 少高 ○大舍人少
少初位上 ○大舍人少輔 ○正膳監令史 ○下
九ヶ國の月
少初位下 ○正殿 少高 ○二署 少高 ○全史 少高
近衛府の生府 少高 長の少高
○鑄錢司 長安院 少高 ○修理官 少高 ○仗 判官 少高
○造寺使 寺大寺 少高 ○造
○防鴨河使 仗 判官 少高 ○檢那遠使
○施業院使 院通 少高 ○補 少高 ○守 少高
○檢那遠使 檢那遠使 少高 ○別南
○全史 少高 ○人 少高 ○補 少高 ○必清

三清智と帝と依杖在者湯の○権儀たる者使
官分と帝の厨是と判史と云在者大尉少尉と
在者大志少志の厨生と云

○源長長者○學考院○法初院女院列考
源長才了と云件と長長と云御兼任あり

○若武長者官白兼任あり

○學館院列考楊長、中補、連代九條院
と傳、楊家皆彼家と云

○内堂所列考
行入必と云

○内教所列考
如事と事と知ると云

○内給所列考
大伴内言補と云

○河厨子所の列考
補藏と云

○大教所列考
内言以上補と云 ○記御所
○上卿

○兵部
○兵衛
○考人

樂所の列考
大寺所の列考

○親王大臣内言補
在人所傳と云

列考
在者代り上と云例あり
右在者一人補
左在者一人補
又唯と云

改
在者一人補
在者一人補
在者一人補

在者一人
在者一人
在者一人
在者一人
在者一人

在者一人
在者一人
在者一人
在者一人
在者一人

出列考人
小舎人
雜色行元
隨口
武勇
武補

拾政 如常式幼帝 冥旨 補佐しし事

親王 位階二品三品四品五品 皇太子 皇太子

公卿 拾政官白及の三々内大臣

一人 拾政官大藏と三必一

公達名 三々唯事の及し 院 院

○大別為 ○執事 ○年次 ○別代 ○主典 ○史人

院司 前の院 ○列者 ○執事 ○年次 ○別代

○主典代 ○庭宮 あはれを庭上人

女官

中宮 ○女院 ○國母 ○内親王 ○女之 ○女御 ○女侍

○御息所 ○更衣 ○小政所 ○御座盤所 ○御通敷

○宣旨 ○藏人 ○奉侍 ○如史 ○主殿 ○侍 ○采女
○了目 ○東宮司 ○雜仕 ○上量 ○下仕

内侍司

尚侍二人 伝典仍四人 内侍四人 尚侍内侍の事

典仍八次官し四人の内一と大典と長と 中一と新大典或ハ中御言典仍宰相曲仍る

上臈 二位三位 小上臈 内侍 中臈 内侍

僧史

僧正 大正 法眼 大正 律師 大正 僧史

日 大正権 法眼 大正 律師 大正 僧史 大正

凡僧之六九早修者以修諸寺一三綱及八情之

社變之僧綱此下四修諸吏准之

法宗大和為僧位僧位法泉和向位僧位法橋上人位律師

傳梵大律師位○傳梵法師位○傳梵海法師

傳梵以上在僧位傳梵入位七位

右其階八題曆十七年九月九日俗修打南准之

者之於自觀六年法橋上人位以上之階之是

大律師位之法橋上人位律師分致時之律師位

元方修准之法師律師位七修准之內位八位

准之律師位八初修准入位律師之是

僧正 傳教 律師 法平 法眼 法眼僧位

已滿 月供 阿闍利僧位 上座 寺主 都維那

執行 白菊 寺務 檢校 別當 座主 長者 長史

以上僧友方之但河門師方以師方如之

比五元却所之白菊友中額寺打對形之總大寺

增寺國持大寺京之具心寺佛元錦藏寺如斯

金地院護持院方在之在寺之在寺

世市之在之在寺之在寺之在寺

伊能之在之在寺之在寺之在寺

之在寺之在寺之在寺之在寺

遠之在之在寺之在寺之在寺

○官位の書位ハ叙すも書也。又官位は

○官位ハ有る也。又官位ハ有る也。如中

後三位也也。又官位ハ有る也。如中

○有る也。又官位ハ有る也。如中

○有る也。又官位ハ有る也。如中

○有る也。又官位ハ有る也。如中

後ハ如從三位ハ有る也。如中

○外國ハ有る也。又官位ハ有る也。如中

大進兼近江守也。征夷大將軍拾政等白

列尚冬親戴人改稱修理少輔校。如中

造寺長友。如中。施業院仗鎮守府將軍

天保六年七月校正八月新舊

前書大納言（イ）大将（イ）兼（イ）大臣（イ）進（イ）中（イ）院正
親町三條三條四の家大将（イ）兼（イ）大臣（イ）進（イ）〇三條以上御
對顔（イ）稱（イ）勅使御返答の節御次書書（イ）公家衆御
前被為（イ）御目見有之〇武家（イ）宰相中將侍將侍之
官名（イ）侍從典（イ）筆頭の外ハ四段相當の官名及八省大輔
左馬右馬頭等（イ）確石（イ）稱喜連川左馬頭柳原武部大輔
與平大膳大酒井修理大夫本多入道中川修理大夫（イ）實修（イ）實
田村在厚（イ）等稱之半井利勢（イ）輔典筆頭（イ）佐（イ）ハ九
關東（イ）露（イ）丹（イ）ハ班列物御醫細之上首あり（イ）奈大路（イ）露（イ）丹
と唯之以上上座（イ）追加（イ）并（イ）

不許賣買三百部限能板



武家装束着用圖

装束着用圖（イ）一帖（イ）此項大久保西山翁ヨリ拜借
ニテ寫ス其書束帯衣冠直衣小直衣直袴袴衣
布衣素襖等之品（イ）故伊勢（イ）貞（イ）先生（イ）書入アリ又
大塚嘉樹（イ）之書書在ト（イ）ハ（イ）公家ノ故實ニシテ
武家ノ古風ニアラズ仍テ直喜以下武家（イ）方ノ
故實（イ）訂（イ）之（イ）家傳（イ）并（イ）伊勢（イ）貞（イ）師（イ）之（イ）説（イ）ニ（イ）ハ
舊説（イ）参考（イ）シテ其書日ニモシタル門人（イ）松（イ）波
茂（イ）芳（イ）シテ撰（イ）セシ（イ）武家（イ）装束（イ）着用圖（イ）ト名ツク

目錄

細長奴袴

水干

素袍

裏口大口

素袍小袴

力者裝束

退紅

水干葛袴

長袴

直衣

小素袍

走衆裝束

子徳四布袴

白丁

右之外原本内衣着用月圖及有衣半袴等之
圖者下云へり毛圖る凡二不及故ニ爰ニ略ス

細長奴袴



白浮織物亀甲

胸紐紫

袖ク、リ

奴袴 着サル事

水干葛袴 地紗或絹 葛袴不定



立烏帽子
風折テ著ル

内ネテ

タリクビトテ
如此折テ著ル
家敷又ス入

鬘緒帯捻
馬ノ尾ヨリテ
用ルモ右

胸紵
赤白モハキ
組ニ色不定

帖帛懐中アル

大帷子

三羽骨黒

紅若人用之朽兼緯日水色等ハオトナニキ
又若人ニ總地文ヲ織入ル
事紗ニテハ片ノ事ナリ

大口コハ袴

菊綴

葛袴
イトテ
例

水干地前 同色目不定



モ、肩

大元結金
イ、元結片

内衣白ニテ子ヲ著ス
家ノ故公家衆
ニハ故ナリ

胸紵

如此苗ル
公家方ニ如此
留ルナリ

袴反カセ
組ニ色不定

袖々ノ紫
仲上

昔
門跡ハ御成ノ時御兒御配膳ニ
赤ラキトニ安ル時水干ヲ著ス候
大カタク時ハ長袴メヒ候
又公方ノ御息ハ水干ヲ著ス
武家ノ息ハ長袴ヲ著候
ト京五大双織ニミハナリ

長絹 地精好又生絹色目不定

長絹ハ裁縫ニ付タル者ニ垂テ
四ツキヌノ右ナリ然レ中比ヲ
裁縫ノ事トナリテ亞領ヲ水子
トシ方領ヲ長絹トス



平元結
白結

内衣ニテリニ着
如編細縹

八ノ字眉

胸紐留様
イサカロ傳アリ

菊閑

袖拵

内衣
紅筋
但不定

素襖 地布色不定

上下揃丸ハ上下トシ
上下下カハリタテハ素襖
袴底ナリカ思矣片身
カワリニ思矣ナリ



平元結

唱食ハ
髪ヲキル

菊閑
引月カハ

胸紐引月カハ
又丹後目蓋袴草等ヲ用テ
無文ノ草紫皮ハ用捨スヘシ

内衣ニツニテリ
赤キハダ

柳色

内衣
ツミセ

紅筋ツミセ
女子ノ着スモノナリトモ
貝ハクルルミカラズ

直垂 地布色浅黄

武家三ツハ多ク直垂ヲ著スルナリ故ニ直垂トイハス
東ノソノトキハ大帷子カサテス



裏赤大口 表法黄布裏生絹

胸綴菊綴 紫草



小素襖

折烏帽子 折棟家ミ
習アリ

長小結 ヒヤクモ
エグミ

羽黒橋
中

內衣梅染紋葛
但不定

小結トモハモト、リツヲ結
タル結ケテリ烏帽子
外ハ別出ヒテムスヒキハ
ヨリ別ナリ夫ナ長ク
残ニ置タルナ長小結
云長小結ヲ用ル事ハ
元服ノ後ナシハニテハ有
ベシ元服前キト著ル
ナキコトナリ

內衣ニシテニ
著ス赤キハ
但不定

ニテ引目キリト
同草

素襖小袴

懸緒豹紋 紺赤
白

胸引目草
菊綴

小袴手箱色不定
節ヲ甘ル

內衣ニ色不定
長ナリト云

豹紋 赤萌
梅

素襖ノ故ヲ豹紋ニスル事ニアラセ
ル
豹紋ヲ見セシメニル
ス

ヒワ色

內衣カケ決黄ニ
明タル小袖暗ノ
寸必著スベキナリ
但不定

走衆装束

上下返股互取

御成ノ時狼藉ヲ
成敗スルヤリナリ

胸綴
菊綴
黒梅草

木又角

金釧
長四八寸
五尺位

又引柄ヲ帛ヲツミ
切又ナ廻ニサスナリ

袴葉色

下着ウラ不定

モ、ハキ

キヤハニ紺
又茶

返シモ、互

足半

力者装束 直垂白袴

長刀ヲ持又徳ヲモカリ

胸綴菊綴紫草

出刀頭巾

淡黄

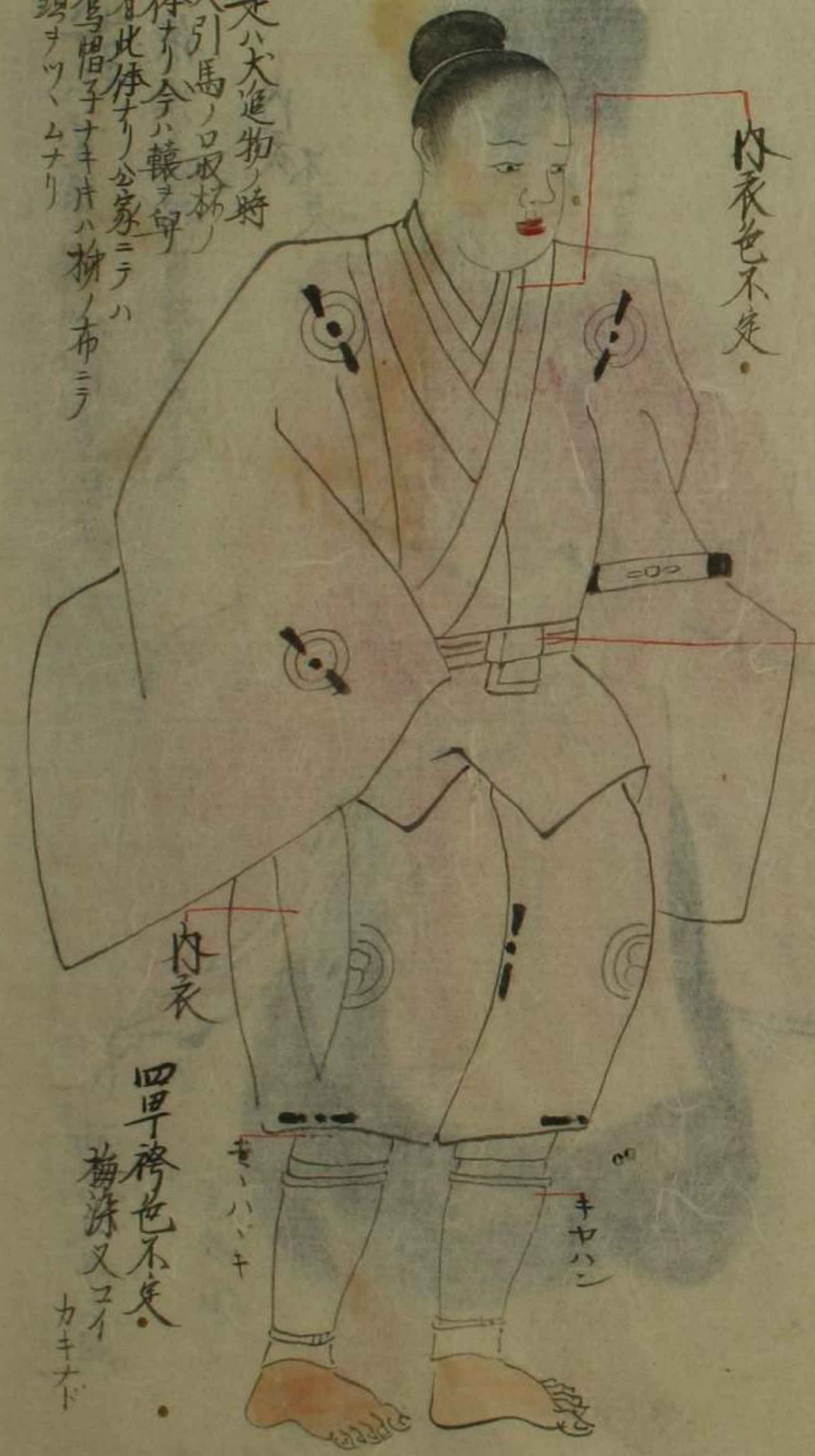
袖コメク、リ

白袴

脚半

足半

是ハ大進物ノ時
 犬引馬ノ口取柄ノ
 体ナリ今ハ轆ヲ穿
 者此体ナリ公家ニテハ
 鷹留子ナキ片ハ柳ノ布ニテ
 頭ヲツムナリ



內衣色不定

內衣

四甲袴色不定
 梅染又ヨイ
 カキナド

モ、ハッキ

キヤハシ

十徳四布袴

帶白布二寸許三層テ之重廻シナレハシ

犬進物ノ時
 夫取ナト此体
 ナレハシ

此袴は元來直垂ノ袴



十徳四町袴

侍ノ十徳ハ生絹ヲ
 用上胸綴リ

地布色不定
 又舊布ヲ染テモスヘシ

四幅袴

足半

モ、ハッキ
 道ニルケシバ
 脚半ナトル



內衣
色不定

白張

仕丁着之布白粉張
傘持皆持者着之

袖タリ木綿手巾



內衣
不定

退紅

荒染尾言 地布薄紅染
依家傘持皆持者着之

袖括木綿手組

黒袴布

台野
金部

直書大日記著ん_ト未其證チ_{ニス}舊説ニ直書大日記
有ハ_ハ禱ニ大日記重タルニテ別ニ大日記著ル事ハ有_ニ
ト思_フ此項直書先生ニ尋_ニ左モ有_{ベシ}重_ノ字
書略ニタラ_ト云給_ク予カ思_フニ合_セ然_ルニ予カ家
師傳ノ書ニ_時代_ノ衰_フノ時大日記著_ルト思_ハリト
見_ニ是_レ師傳ナ_シハ_キ由_ニテ_ニ只_キニアラズ捨_{ベキ}ト思_フ
ニ_三康_高元_正元年八月將軍義政_ニ任_大臣_高會
余_ニ管_領右_京大夫_勝元_朝臣_直惟_清武_家奉行
攝_津掃_部頭_等之_三人_皆直_惟清_ニ任_大臣_高會
ト_ニハ_タリ_此外_ト嘉_吉二年_之余_兩局_之直_書大_{日記}

キスト見へは是等ヲ考合スレハ公家方ニテ大計
 著スル一モスラシ
 又鑑下ニ著スル大口ヲ平大口トセシハ大口計ニハ
 長キ大也是等ヲ考レハ師説ニ捨カタルテ圖ノ
 書強而可削去歟

天正十八年十二月十七日伊勢國幡守直知御
 對面記ニ直垂申ハ大口著候ハテ直垂
 計著候ニ由候思儀ニテ候ト云々

追加

直垂素袍小袖等ノ色目
武家方ノ文書所見
 所計記ス

- 白
- カケモヘキ 深モヘキニ黒ミアリ
- 赤梅 深梅屋ニフミテニ度計
ソメタル色
- 黒梅 深梅屋ニフミテ四五度深
今ニ黒飛ノ類
- カ子ニ 深黒ニ赤氣アリ
- 木蘭地 深黄ニ黒ミ有ニ一説ニ梅
深織タキ昔ハ黒
- 黄子ヤ 深黄ニ赤ミ有ニ昔
リタル色
- 朽葉 深キニ赤ミ
- 柳 深音ノ白ニタル也
深梅白深音一説ニ叔モキ
- 赤根 深道ニヨリ出ルタ
- カケ浅黄 深
- 梅深 深梅屋ニフミテニ度計深ル
如賀ノ四ヨリ出ル梅ヲヨミトス
- 海松 深音ニ黒ミ有ニ色
深梅葉深音一説ニ深青深黒
- ムリノ 深黒ニツヤ無ニ一説ニ
黒ニ音ニアリ
- 水色 深花田ノ至テウスキ色
一説ニコキ色柳子細アリ
- 茶深 深黄茶ノ赤ミキニスキ
ナキナリ
- ヒワ 深黄ニ色ノウレニタル色
- 檜皮 深梅方ニ黒ミ有ニ深梅花白
深梅方一説ニ深赤深黄

カヤ

織ヌキ白經黃

エシ

深緯白經黃

花田

深藍ソメナリ

几リ

深花田ニツヤ有る色

玉ムシ

深紺ニツヤマル色

ツミガ花

深紫文書色目考ニ

ハツ繪

深紫ヲ繪梅ニ置

紫

深今テノ江ノ紫ハ

目結

深紫文書色目考ニ

度子

右ニ同シ

一ツセ

深紅緯紫白ツセ

空色

深緯淡黃經白

浅黄

深

音

深モヘキニナシ黒ニナリ

萌黄

深黄ニアチ氣ノ入

トカケ

深淡黄ニ黒ニ有テ赤氣アリ

ホタケ

深表白東紅ホタケ

スリ

藍ニテ繪梅ヲスリタルナリ

又キノ白

緯白經紫

重目結

上ニ同シ

紅梅

深緯紫經紅

紅筋

深紅ニテ横筋有ラズ

筋

深紫横筋ノ至テ細也

段

織筋ノ大キナリ大小ナリ

カラマキ

深ニキソメ也

細格子

織格子ノ至テ細キ

小格子

織格子ノ至テ小ナリ

カヲシ地

深紺地ニ白ク紋ヲ出ス

黄練ヌキ

深經黃緯白

筋

深色ハ何ニテモ筋深

トリ深

深スナテ出シヨセタルナリ

格子

深緯經ニスチアハナリ

紅格子

深紅ノ格子ナリ

カヲシ

深紅ノ地ノ白キ文ナ

ムラエ

深殿傳ヲ白セタルナリ

織色

深ニスルヌメリ色ナリ

何色ニテモ腰明タル小袖ハ暗ク時著スヘシ片身唇リハ略義也
無文之小袖不可著大梳此分タルヘシ此外ウ子マカセハ左
若之分別心得ヘシ委鋪ハ貞順豹文書色目考ニ

之凡又故、二畧又

右一册借取田氏藏書謄寫訖

嘉永二己酉年五月十九日 神谷克禎

再

嘉永六癸丑年三月二日寫 小寺養久

武家官位畧記御昇進之次第

右大臣

正二位

相當正二位

唐名

右近衛大將

相當從二位

右近衛

内大臣

正二位

相當正二位内府

唐名

羽林大將軍大樹

尾州 紀州 御極官

一橋治濟 藤任之格別欵

水戸 御極官

御三卿 御極官

大納言

從二位

相當正三位 重相

中納言

從三位

從三位 黃門

尾州紀別 御家督 無程
同大納言之 御嫡子 中納言
加賀 極宣

尾州紀別 御嫡子
水戸 御家督 無程
御三卿 御家督
水戸中納言之時御嫡子

宰相 從三位
相當十一 正四位下
參議上之依之位署書之必參議
卜書ナリ

左近衛權又右 從三位
中將 正四位上
從四位下 正四位下
羽林中將 從四位上

薩摩 極宣
陸奥 極宣
松平譜政守 極宣
松平薩摩守士貴琉球
三度召進之依之格別
事九八二

加賀 家督
越前 極宣
松平肥後守 極宣
松平越前守重富任之(其後)
例名事之依之格別
先達之依之格別
正上之依之格別
事九八二

越前 家督
高家衆 極宣
水戸 御嫡子
加賀 極宣

越前 嫡子

左近衛權又右 從四位下
少將 從四位上
正五位下 從四位下
羽林次將

侍從 從四位上
從四位下
從五位下
拾遺補闕

松平彈正大將 勝富依勳功叙
松平左衛門大夫 極宣 從四位上
尾紀御三男 初宣 極宣
薩摩
陸奥
國持十四家極宣
松平肥前守 未任之
松平土佐守 未任之
伊達遠江守村傳御嫡子
依之格別
松平越前守 未任之
松平越前守 未任之

高家衆 初宣
溜詰 御老中
京都御所司代
松平彈正大將 嫡家督共
松平左衛門大夫
松平大學頭 極宣
松平橋本守 極宣
水戸御三男 初宣 極宣

松平隱岐守
 松平下忍守
 酒井進藤頭
 任之
 溜詰之時

國持十四家 家督

松平左兵衛督 家督極室

宗 對馬守

松平越後守 極室

伊達村候出將二任
 松平越後守章子保
 頂早世依子家督改
 八尾若手後中將三任

井伊掃部頭
 松平肥後守
 松平譜政守
 嫡家督
 薩摩 嫡子
 蔭奧

松平大和守 松平譜政守
 少將大膳頭 神原式部大輔
 酒井指梁頭 酒井左衛門尉
 松平下忍守 松平左近將監
 丹羽左衛門守 松平出雲守
 松平甲斐守 松平左兵衛佐
 南部大膳頭
 右極室
 家ニヨリ不同

四品

從四位下也
 中大夫

御老中 無任侍從二任

御側御用人

大坂御城代

右

松平大學頭 嫡家督共

松平播磨守

國持十四家 嫡子

但 細川越中守 四品

松平相模守 四品

松平左兵衛督 嫡子

宗 對馬守

松平越後守 嫡家督

伊達遠江守

伊達村守直三侍從三任
 松平別守十九
 右の家督依子家督改
 四品格別十八

松平大和守 家督嫡

初年家督者
 同見舟柳
 叙松守

松平越中守 貞平大膳頭

大保家督守 酒井修理大夫

真因量後守 津輕越中守

松平飛騨守 松葉丹後守

右極室 家柄ニヨリテ遠近不同也

永元但馬守 承朝

酒井伊勢守 直重

織田出雲守 信憑

右四家格別十八

松平遠江守 筆頭

松平隱岐守

松平甲斐守

有馬國直後守

松平飛騨守

酒井雅樂頭

松平下總守

丹羽左衛門大夫

松平左衛門尉

大谷孫安守

津輕越中守

松平出雲守

松平出雲守

小笠原大膳大夫

酒井左衛門尉

松平越中守

松平出雲守

右之花以下四品ノ後松之間ニ出ラレ

諸大夫

從五位下也 朝敵大夫

若御 年寄可 御養者香

方石以上又ハテ

同 嫡子 無嫡嫡子 叙爵ナシ

若年寄 御養者 番嫡

大坂御 叙番嫡子

右無城ニテモ叙爵

松平志摩守

柳原越中守

加賀守 家老

右

右

子八百石

御側衆 西天

大番頭

御前御家老

御作筆奉行

長騎奉行

禁裏奉行

奈巨奉行

駿府御城代

御書院番頭 西

御勤史奉行

御普請奉行

松前奉行

仙洞付

塚奉行

伏見奉行

御小姓組番頭 西

早奉行

小普請奉行

京都早奉行

山田奉行

御小姓頭取 西

御留守居 西

林大學頭

大同付

甲府勤番支配

大坂早奉行

日光奉行

御小普請頭取 西

御小姓衆

御役被

御基様御用人

御叙任ノ後子細アリ

中奥御小姓

御付程アリテ

此外御譜代家勤功ニヨリ叙任ノ家有ベシ

○國持十四家

| | |
|--------------------|--------|
| 細川越中守 | 松平筑前守 |
| 松平安藝守 | 松平大膳大夫 |
| 松平肥前守 | 松平相模守 |
| 松平上総守 | 藤堂和泉守 |
| 松平阿波守 | 有馬中務大輔 |
| 佐竹右京大夫 | 松平土佐守 |
| 松平出羽守 | 上杉輝正大弼 |
| 右 = 加賀 | 越前 |
| | 薩摩 |
| | 陸奥 |
| 四家ヲ加ハ國家ノ八家トシテ參府御殿モ | |
| 上使御老中ナリ | |

慶長十七ヶ条ニ曰ク武家ノ官位ハ公家當官ノ外あり

公家方官位ノ外あり牧ノ定りもなし

○初任四品初官侍從ありて是が初任の御家あり

右は位階となくとも百級せりては是なり

○昇進の事ハ古来大は例言ニ宰相ありて是なり

尚書卿ありて是なり是より是より天和の御家あり

諸家の格式定りし

○系部御使の家ハ其功より昇進せり

○家持御使の家ハ侍從ありて是なり

元禄の御使の家ハ初任御使見出月並に礼部卿あり

元禄の御使の家ハ初任御使見出月並に礼部卿あり

いさゝか官者たるは似たる因縁物ありとの字は
吾等女をく女の子を言時官者ありて左衛門
右衛門の吉原の又ハ官者ありて上京家と如く時
官者ありては是も吉原の府ありて府の字と如く
人ありては是も
○万石の所の例えの婦人廿歳と叙爵せしむ
年近例あり
○若高の身交付事合離せ居りて官ありては是を
若高可せしむ事親控とせしむるあり

群書類從 第百十五 装束部四
後照念院殿装束抄



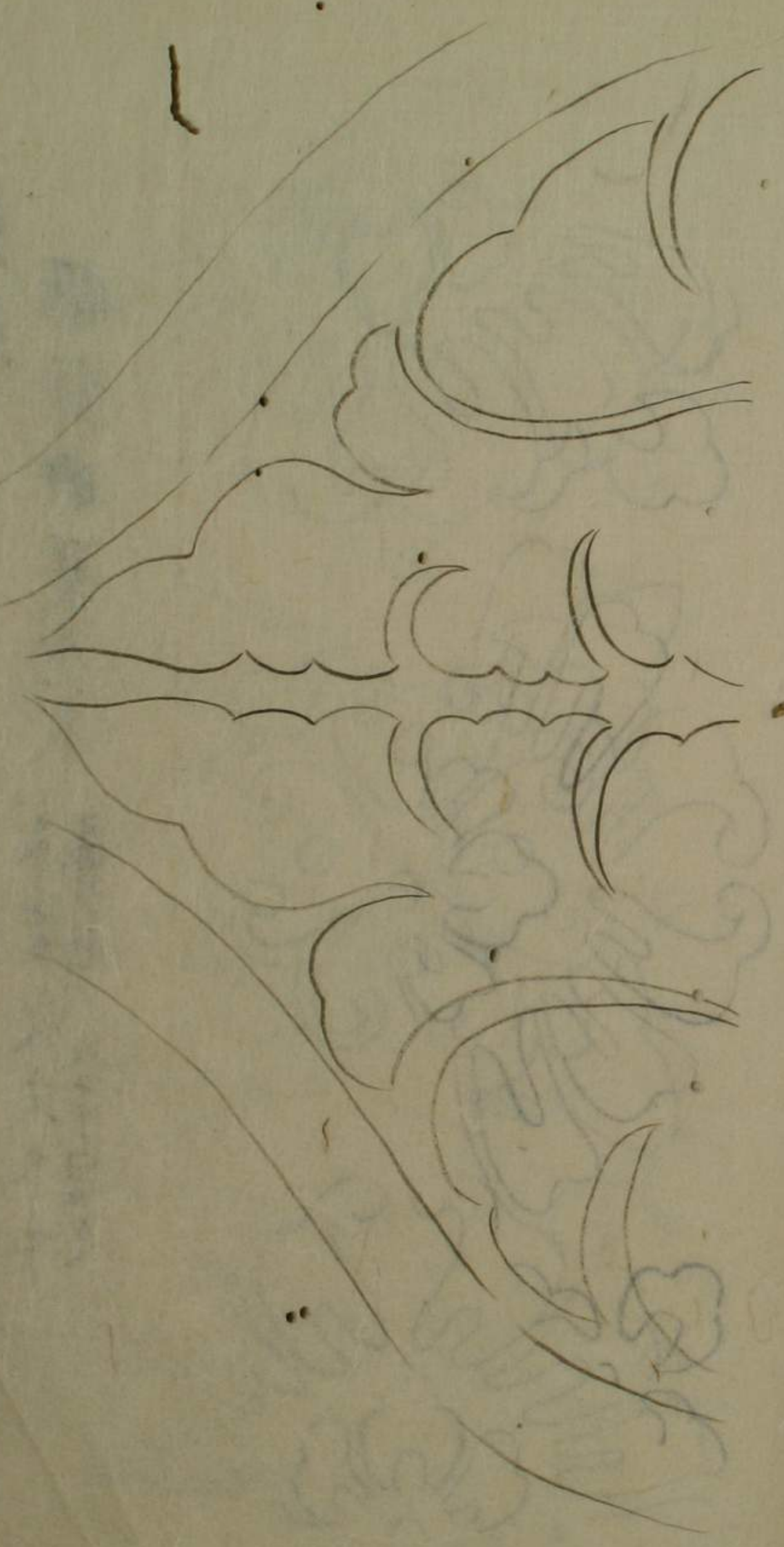
龍膽唐草，又袍車

攝錄以前着之

繪樣文大小可依車齡

淡藍色印文，內容模糊，似為書名或卷名。

式抄云執柄袍文沸
 雲八攝四海如雲故
 用之



五浦雲繪棟
 振錄人將
 冬着之



浮線于少

攝錄時夏袍文

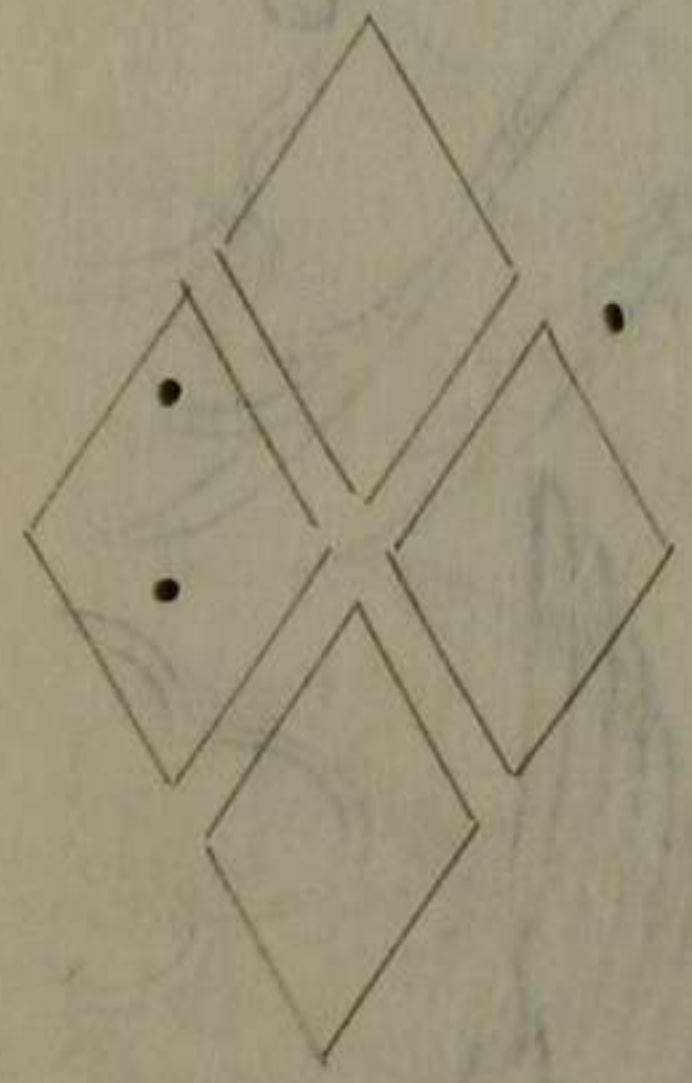
冬直衣文冬下
襲之面ノ文等同之





大閣時袍文繪樣
同夏冬

下龍交文華
 冬下龍交面交
 見右
 同龍交武巖交地
 夏下重交同交



冬交文面交

幾夫自是



土御門

正治二年正月十五日

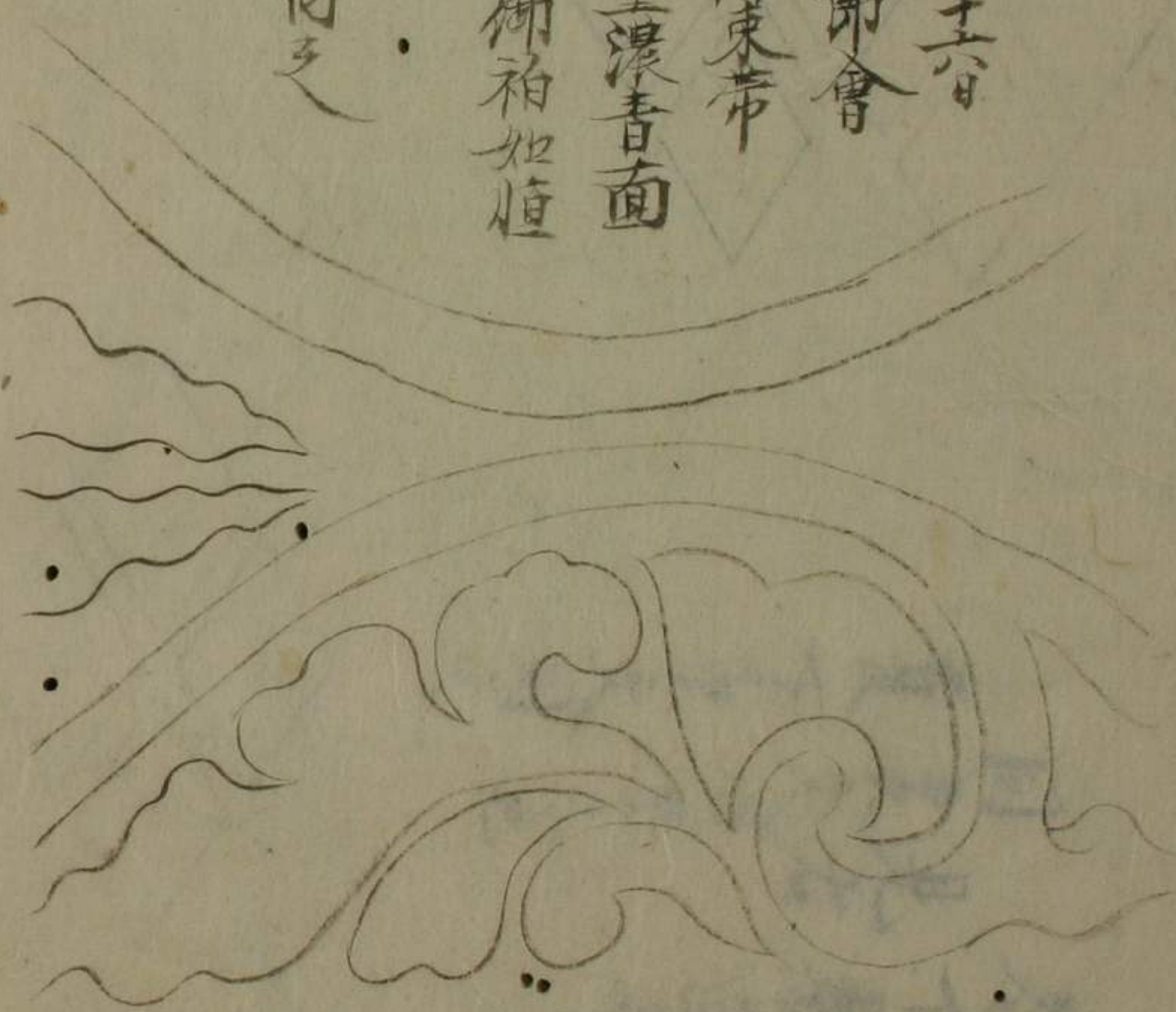
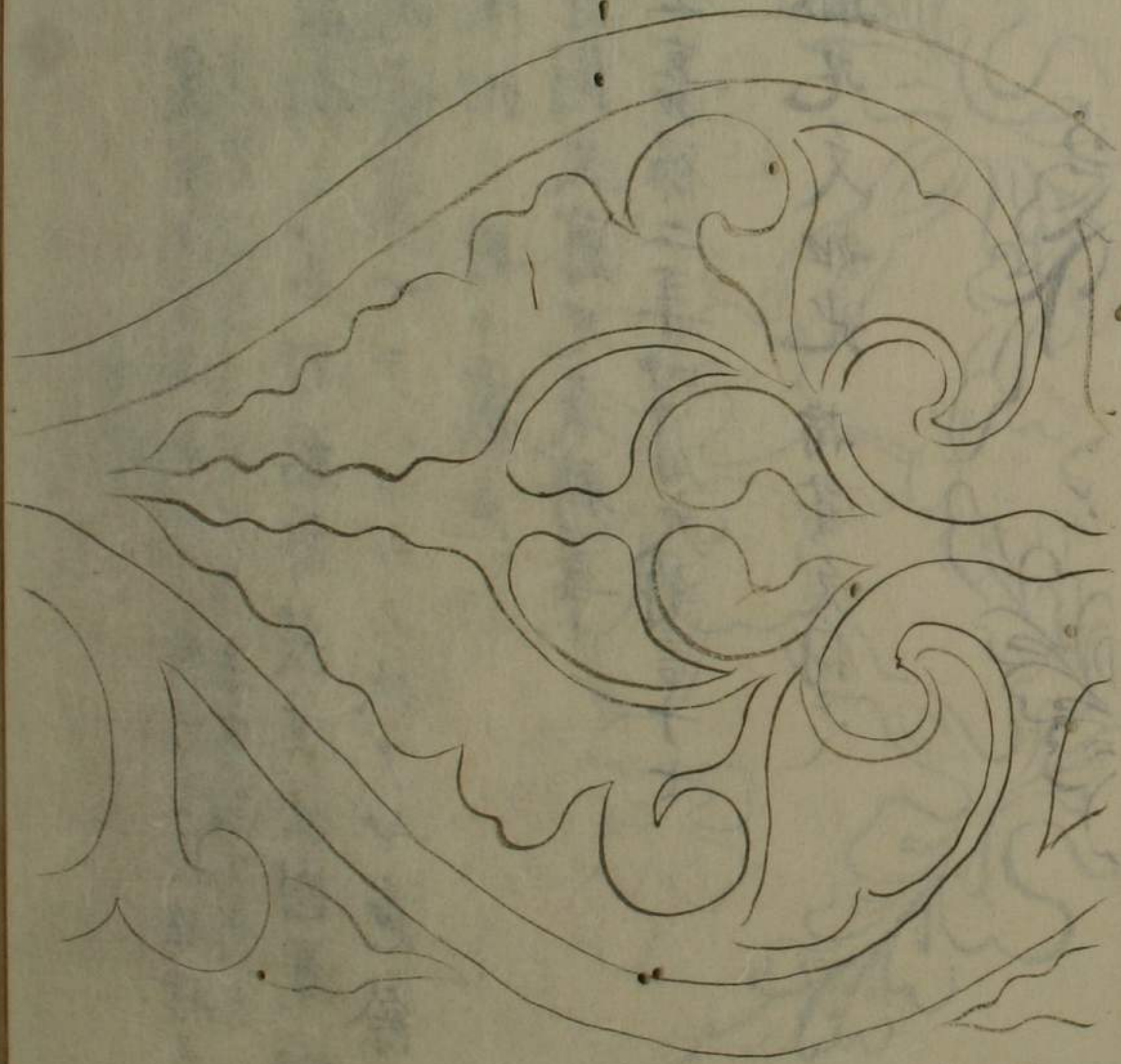
親輔卿記云節會

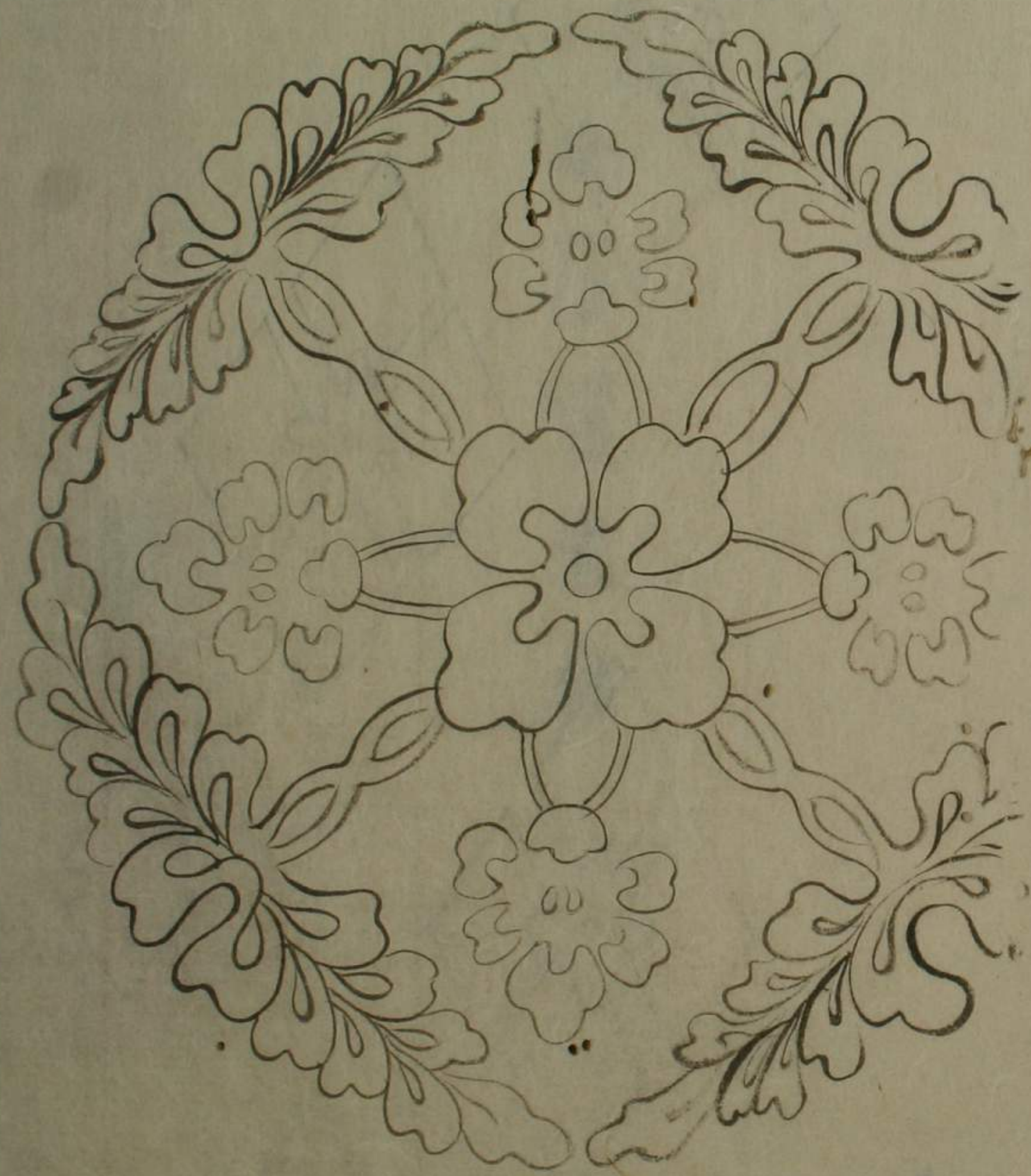
殿下御恭丹御束帶

濃香張御下童濃香面

綾張白卒絹御袍如檀

表文相同云





表袴文

霰窠也若年時著之羅宿左後暗時又著之
文大小依年時其事委可動先例也

表衣仰之若時縮線綾其次因織物文

藤丸霰窠一テハアラス次アヤ也餘人

因織物之時モ霰也

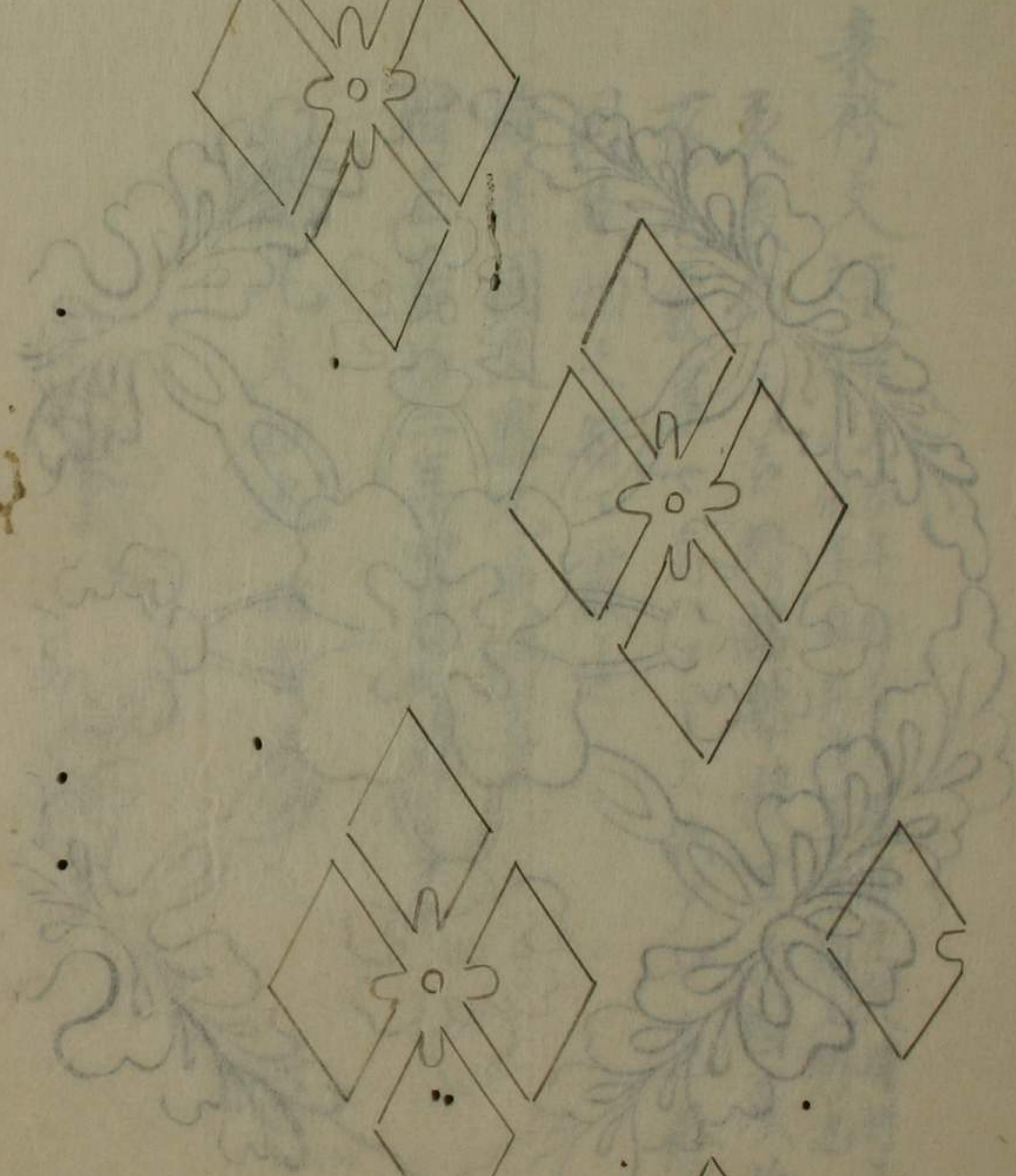
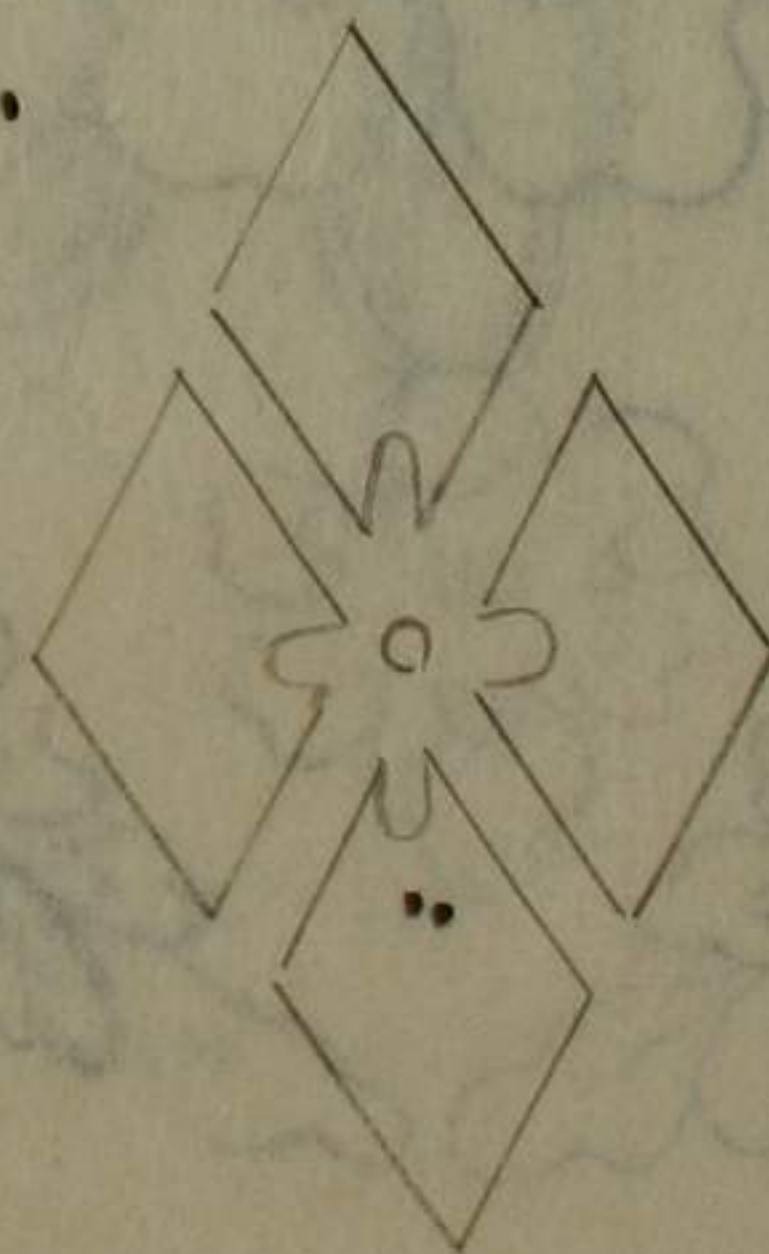
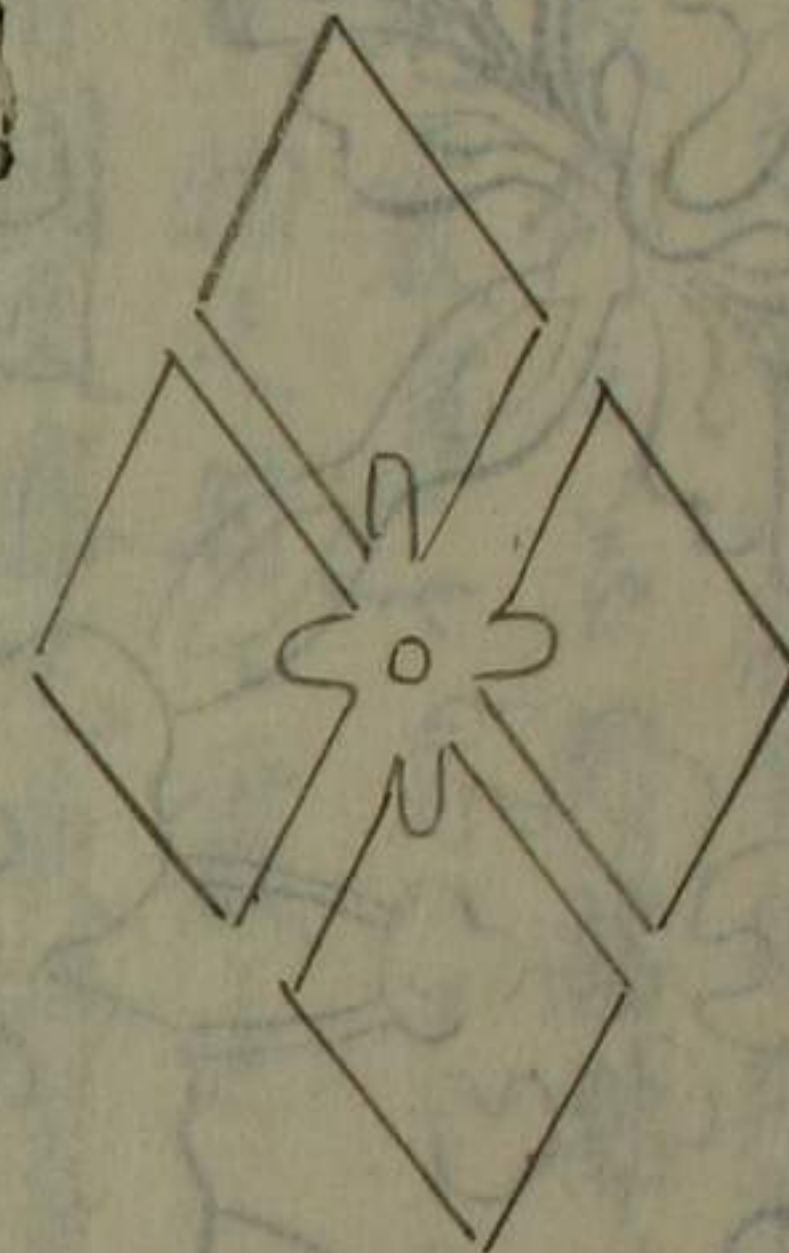
始着因文藤丸表袴事

因屋嘉祿二年四月大約言十七

藤丸文如此 指置文同之



女房装束抄



女房壯束抄

△女御壯束

五衣 綾地牡丹唐衣表白裏紅

○ 打衣 表紅綾板引裏紅平絹

○ 打袴 表紅平絹板引裏紅

○ 表著 表茜染織物二重織入子菱

白ウワ紋ダキボタニ裏紅

○ 小襦ウチキ表 葡萄織二重織物表紋唐

松裏紅隻ハ白生絹

○唐衣表二重織物地紋龜甲表紋

紅夕キ牡丹裏小菱綾板引夏ハ

紫又ハ萌黄

○裳 穀織桐鳳凰色繪ヲ畫引腰

窠霰裏白板引菱ノ綾

○掛帶 地唐衣織物ニ同ニ以色糸

畫

○單 隻精好白久々綾幸菱紅

○額エダ縹ダ裏表紅平絹裏黄平絹

白居易詩

黃縹縹林寒有

葉未碧瑠璃水淨

魚塵。注曰縹

縹者赤色黄也

相交之文也

霜葉似之也

其光狀微似碧

唐花縫有之

濃紫之額ト縹トハ紫ク、ニノ菱

○繪扇

△典侍

○五衣 緯紅經白桃色ニ白キ紋

櫻之八重一重ヲ織交也ニツメラ

リ也裏紅

○打衣平絹紅板引裏紅

打袴平絹紅板引裏紅

○表著萌黃地紋唐花浮織物

裏紅夏冬二依テ紋晉紅葉ノ

折枝椿唐草夏也

○唐衣紅二重織物紋龜甲蝶

丸夏ハ藤凡裏紅板引



○裳縠織桐鳳凰以色繪畫引

腰窠兩散裏白板引夏ノ綾

○掛帶如唐衣唐鳥ノ縫有之

○草萌黃華菱ノ織物

○額縵裳表紅平絹裏黃平絹

唐花之縫在

△内侍

○五衣白地花菱唐草裏紅

○唐衣萌黃織物裏菱綾板引

○打衣平絹紅板引裏紅

○單萌黃辛菱綾織物

○纈纈裳紅平絹裏黃平絹唐花

縫

○裳縠織桐鳳凰以色繪畫引腰

窠霰裏白板引之菱綾帶八地



唐衣織物同縫以色系畫引

腰窠霰裏白板引之菱綾掛

帶地唐衣織物同縫以色系

畫

△命婦

○五衣表綾杏葉之九裏平絹

紅

○唐衣表白練裏平絹萌黃板

引

○打衣平絹紅板引裏紅

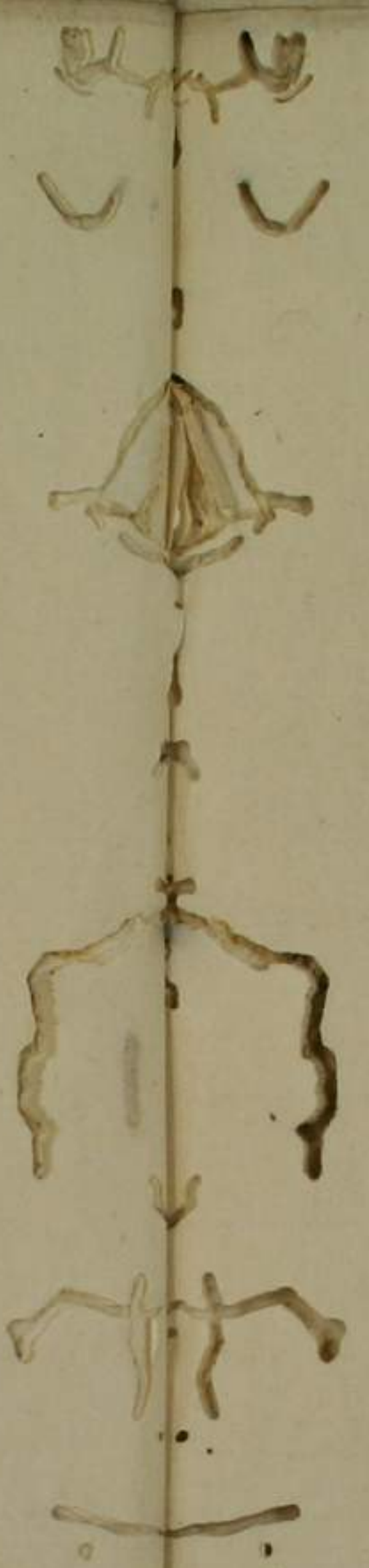
○打袴同前

○單萌黃辛菱之織物

○鋪織裳表紅平絹裏黃平絹唐

花縫

○裳如前



△采女衣

○繪衣表白練裏萌黃表雲二

○繪花采色繪有裏生絹

○衣花色地生絹二青海水以胡

粉畫

○袴裏表紅平絹

△舞姬衣

○五衣、表蒔黄櫻ノ折枝ノ織物
裏紅也

○唐衣、表紅練衣紅平絹ノ裏也

○單、女中ニ同也

○折衣、平絹紅板引裏紅

○掛袴、裏表紅平絹

○裳、引腰藤ノ様ナルワルト

葉ト有之



○袷帶、紅練裏同紅平絹紋椿

唐草縫

○湯摺衣、女房之衣也湯殿之

衣也

○御湯殿之女官ナトハ天子ニ

近クキ奉ル事ナラス故ニ典

侍内侍等湯摺衣ヲ上ニ着

テ御用ヲツトムル也裳ノヤウ
ナモノ也俗ノマヘダレノ如キノ
物歟

私曰命婦ノ格ナモノ歟

○御下装束表白キ神也
葛平絹萌黄也板引也

經生
緯練

初めは...

馬上の将... 西園寺...

先年... 瑞龍院... 瑞龍院...

澄を... 長... 瑞...

分

懐中... 瑞...

當... 瑞...

家... 瑞...

法... 瑞...

二... 瑞...

小... 瑞...

前着... 後着... 右着... 左着... 瑞...

平胡服 重胡服 重胡服 重胡服 重胡服

平胡服 重胡服 重胡服 重胡服 重胡服

平胡服 重胡服 重胡服 重胡服 重胡服

平胡服 重胡服 重胡服 重胡服 重胡服

平胡服 重胡服 重胡服 重胡服 重胡服

平胡服 重胡服 重胡服 重胡服 重胡服

平胡服 重胡服 重胡服 重胡服 重胡服

平胡服 重胡服 重胡服 重胡服 重胡服

平胡服 重胡服 重胡服 重胡服 重胡服



右者古見幸和先生之白筆之書以予
 寫之棚橋氏維光堂珍藏書下
 不將矣夫茂林末二日連破三平之至
 老眼之寫

